

資 料

資料 1.

自治体へのアンケート調査 依頼文・調査票・調査結果

資料 2.

令和 4 年度 実践検討・意見交換会 募集要項・プログラム・資料

資料 3.

ーICF システム&行動観察システムー行動と環境の包括的アセスメント
による環境調整支援パッケージ【実施マニュアル】
令和 4 年度実践検討・意見交換会 Ver.

資料 4.

実践検討・意見交換会 アンケート調査票・結果

令和 4 年 7 月 25 日

都道府県・政令市・中核市
障害福祉担当課ご担当御中

独立行政法人
国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
総務企画局研究部 研究部長 日詰 正文

**令和 4 年度厚生労働科学研究補助金 障害者政策総合研究事業における
「強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の
構築のための研究」実施に係る、アンケート調査へのご協力をお願い**

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より当法人の事業運営にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当法人では厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課が所管する令和 4 年度厚生労働科学研究補助金障害者政策総合研究事業として「強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の構築のための研究」を行っています。ご多忙中のところ恐縮ではございますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 研究の背景と目的

強度行動障害のある障害者への支援方法について、平成 25 年度より始まった強度行動障害支援者養成研修において、「障害特性の理解」や「適切な環境調整（環境の構造化）」などの支援をチームで一貫して行い、利用者の Q O L の向上を目指すことが重要であることが全国的に周知されています。

しかし、支援現場への浸透は十分ではなく、一部の事業所や職員に負担が偏っていることが先行研究より明らかとなっています。この状況を解決するためには、①事業所内の支援チームの中核となって実践やチームづくりを行う中核的人材の育成が必要であること、②事業所の中核的人材と協力したコンサルテーションや、地域の事業所と行政、教育、医療等とのつなぎを行う指導的人材の育成・配置と、指導的人材を中心とした地域の支援体制づくりの実現が必要であること、③ICF の視点による Q O L の向上のための支援と ICT の活用が有効であることなどの方向性が整理されています。

本研究は、先行研究等で明らかとなった強度行動障害支援における指導的人材育成および地域支援体制構築の視点を整理し、実際に複数地域において試行・検証行うことで、全国での地域実装に向けたプロセスを明らかにすることを目的とします。

2. 本アンケート調査の内容

全国の自治体における強度行動障害者支援の取り組みの状況を把握し、本研究を行う上での基礎資料とします。また、本研究へのご興味やご協力についてのご意向をあわせてお聞きします。

調査の対象：全国の都道府県、政令市、中核市（129カ所）

調査の方法：アンケート（別紙・A4用紙1枚）

調査の時期：令和4年7月27日（水）～令和4年8月22日（月）

3. 回答の方法

所定の「回答票」（Excelシート）に回答をご入力ください。8月22日（月）までに、回答票を添付の上、メール（返信先：nozomi.tyousa@nozomi.go.jp）にてご返信ください。

4. その他

ご回答いただいた内容から、本研究へのご協力のご依頼や、具体的な状況を把握することを目的としたヒアリング調査等をお願いする場合があります。その場合は、別途電話、メール等にてご相談をさせていただきます。

5. 参考資料

本研究は以下の先行研究を基に行っています。詳しくは以下の資料をご参照ください。

令和3年度厚生労働科学研究

「強度行動障害者支援に関する効果的な情報収集と関係者による情報共有、支援効果の評価方法の開発のための研究」（国立のぞみの園）

報告書→ <https://www.nozomi.go.jp/investigation/pdf/report/03/R03-4.pdf>

令和3年度障害者総合福祉推進事業

「強度行動障害者支援に関する中核的な人材の養成に関する研究」（一般社団法人全日本自閉症支援者協会）

報告書→ <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000963572.pdf>

【問い合わせ先】

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

総務企画局研究部研究課（担当：日詰・高橋・内山・岡田）

TEL 027-320-1400（土・日・祝を除く8時30分～17時）

FAX 027-320-1391

E-mail nozomi.tyousa@nozomi.go.jp

自治体における強度行動障害者支援に関する取り組みの状況について【予備調査】

自治体名		回答者名	
担当部署名		連絡先	

■貴自治体の強度行動障害者支援に関する現状や取り組みについて、以下の質問にご回答ください。

Q1.貴自治体において、過去5年、強度行動障害者支援の現状について把握するための調査や、対応のための検討等を行っていますか。

①行ったことがある（→以下、Q2、3、4をご回答ください）

②行ったことはない（→以下、Q4をご回答ください）

回答

Q2. Q1で「①行ったことがある」と回答した方のみご回答ください。
調査や検討を、どのような場で行いましたか。（複数回答あり）

①協議会（※障害者総合支援法第八十九条の三）

②発達障害者地域支援協議会（※発達障害者支援法第十九条の二）

③障害者施策推進協議会（※障害者基本法第三十六条）

④その他(自由記述)

回答

※④その他の場合は自由記述も
お願いします。

Q3. Q1で「①行ったことがある」と回答した方のみご回答ください。
行った調査や検討の具体的な内容、あるいは掲載ホームページのアドレスを教えてください。（自由記述）

Q4. 本研究では、令和4年度から令和6年度までの3年間で、「地域の事業所へのコンサルテーションや、地域の事業所と行政、教育、医療等とのつながりを行う指導的人材の育成・配置と、指導的人材を中心とした地域の支援体制づくり」を目指し、いくつかの地域でモデル的な導入を行いたいと思っています。
この取り組みへのご興味や、ご協力いただけるご意向はありますか。
以下の選択肢よりご回答ください。

①興味があるので、話を聞いた上で協力の検討をしたい

②今は特に必要ない

③どちらともいえない

回答

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。
(アンケートの返信先：nozomi.tyousa@nozomi.go.jp)

自治体における強度行動障害者支援に関する取り組みの 状況について【予備調査】

—調査結果—

1. 調査の概要

■目的:

- ① 全国の自治体における強度行動障害者支援の取り組みの状況を把握
- ② 本研究への協力についての意向の確認

■対象:全国の都道府県、政令市、中核市(129カ所)

■調査の方法:アンケート(A4用紙1枚)

■調査の時期:令和4年7月27日(水)～令和4年8月22日(月)

◆結果:83自治体より回答(回収率64.3%)

2. 調査結果

問1. 貴自治体において、過去5年、強度行動障害者支援の現状について把握するための調査や、対応のための検討等を行っていますか。

- | | |
|-----------|------------|
| ①行ったことがある | 30 (36.1%) |
| ②行ったことはない | 53 (63.9%) |

問2. Q1で「①行ったことがある」と回答した方のみご回答ください。調査や検討を、どのような場で行いましたか。(複数回答あり)

- | | |
|---------------|------------|
| ①協議会 | 15 (50.0%) |
| ②発達障害者地域支援協議会 | 5 (16.7%) |
| ③障害者施策推進協議会 | 0 |
| ④その他(自由記述) | 13 (43.3%) |

3

問3. Q1で「①行ったことがある」と回答した方のみご回答ください。行った調査や検討の具体的な内容、あるいは掲載ホームページのアドレスを教えてください。(自由記述)

回答あり 26

【自由記述内容(一部抜粋)】

- ・ 支援機関へのアンケート調査を実施し、「現在の支援状況」「支援における課題」「その他、意見等」について尋ねた。回答結果を発達障害者地域支援協議会で共有し、課題への対応について意見交換を行った
- ・ 支援施設の入所待機者減少のための方策検討および支援施設入所待機者の行動関連項目点数を確認し、強度行動障害者の待機者数を調査を行った
- ・ 県内の強度行動障がい(児)者数や支援状況を把握し、県の施策に反映させることで福祉の向上を図る目的で実態調査を3年に1度実施している。調査内容は、施設を利用している強度行動障がい(児)者の数及び点数、対象者の支援の状況、受け入れの経緯、行動障がいが発生する要因、施設が認識している支援の課題等
- ・ 強度行動障害支援者養成研修の受講者を対象とし、支援現場の課題を把握し、今後の支援の質の向上を目指すことを目的としてアンケート調査を実施した
- ・ 令和元年度より市の障害者自立支援協議会においてワーキングを設置し、強度行動障害支援に関する実態把握や課題解決に向けての取組を検討。
- ・ 実態調査を平成18年度、平成24年度、令和元年度に実施している。市内の施設にアンケート調査を行い、今後の取り組むべき支援や予防的視点に基づく早期(幼児期)からの支援の課題を明らかにし、今後の施策の基礎資料を得ることとしている
- ・ 市の障害福祉計画策定に向けたアンケートにおいて、市内の障害福祉サービス事業所を対象に利用者の強度行動障害者数、支援者の強度行動障害支援養成研修修了者数、強度行動障害者受入れの可否について調査を行った。

4

問4. 本研究では、令和4年度から令和6年度までの3年間で、「地域の事業所へのコンサルテーションや、地域の事業所と行政、教育、医療等とのつなぎを行う指導的人材の育成・配置と、指導的人材を中心とした地域の支援体制づくり」を目指し、いくつかの地域でモデル的な導入を行いたいと思っています。この取り組みへのご興味や、ご協力いただけるご意向はありますでしょうか。以下の選択肢よりご回答ください。

①興味があるので、話を聞いた上で協力の検討をしたい	29	(34.9%)
②今は特に必要ない	23	(27.7%)
③どちらともいえない	30	(36.1%)
※無回答	1	(1.2%)

【①の回答の内訳】

- 都道府県： 18カ所
- 政令市 ： 4カ所
- 中核市 ： 7カ所

令和4年度強度行動障害支援者養成研修 実践検討・意見交換会

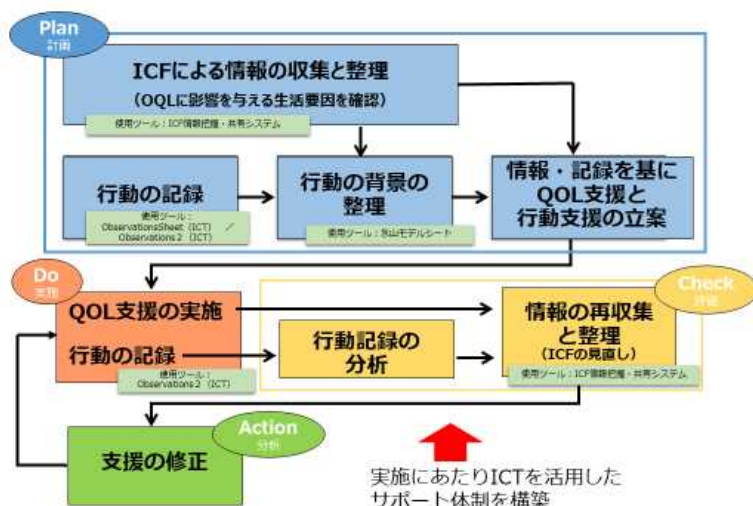
国立のぞみの園では、令和3年度厚生労働科学研究において、障害特性や強み等本人の全体像の把握、および記録の効率化や支援者間での円滑な情報共有を行いやすくするため、「－ICFシステム&行動観察システム－行動と環境の包括的アセスメントによる環境調整支援パッケージ」をとりまとめました。内容は下記URLをご参照ください。

(<https://www.nozomi.go.jp/investigation/pdf/report/03/R03-4.pdf>)

※パッケージの概要

実践検討・意見交換会では、参加者の実際の事例に対し、このパッケージを活用しながら、チームで生活の質向上に向けた支援を検討することを目的としています。

また、事業所内だけではなく、地域で支えていくために必要な視点や人材養成について、国立のぞみの園が取り組んでいる研究をもとに、意見交換を行う予定です。



開催日程とプログラム内容

各回、講義とグループ討議が中心です。グループ討議では、パッケージをもとにしたチーム支援の実際や支援にあたっての課題や工夫、支援内容の検討等を行っていきます。グループ構成は、参加者4名とファシリテーター1名を予定しています。期間中は、グループチャットを活用して、情報共有等を行い、実践のサポートを行います。

第1回
12月1日 (木)
10:00～16:00

■ ICFについて

講師：北海道大学大学院 教授 安達 潤氏

■ 行動の捉え方について

講師：鳥取大学 教授 井上 雅彦氏

次回までの期間に各事業所で実践
◇ICFシートの記入
◇記録方法の周知
◇支援の実施・記録
◇支援結果のフィードバック

第2回
1月13日 (金)
13:00～16:30

■ ICF情報把握・共有システムを活用した支援の検討方法について

講師：北海道大学大学院 教授 安達 潤氏

■ 記録からみる支援の検討方法について

講師：鳥取大学 教授 井上 雅彦氏

次回までの期間に各事業所で実践
◇支援方法・記録方法の周知
◇支援の実施・記録
◇支援結果のフィードバック

第3回
3月1日 (水)
13:00～16:30

■ 実践をもとにした意見交換

講師：北海道大学大学院 教授 安達 潤氏
鳥取大学 教授 井上 雅彦氏

■ 令和4年度厚生労働科学研究に関する報告・意見交換

令和4年度厚生労働科学研究の趣旨

国立のぞみの園では、令和4年度より「強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の構築のための研究」を実施しています。この研究は、強度行動障害支援における指導的人材に必要な要素と指導的人材等を核とした地域支援体制構築の視点を整理し、複数地域で試行・検証することで、全国での地域実装に向けたプロセスを明らかにすることを目的としています。

概要・申込み方法



開催方法	オンライン開催（全3回）
募集人数	30名 ※定員を上回る応募があった場合は、地域のバランス・経験年数等を考慮し、選考させていただきます。
参加費	無料
募集要件	・国立のぞみの園が開催する強度行動障害支援者養成研修（実践研修（指導者研修））修了者または修了者の推薦を受けた方 ・強度行動障害がある方の直接支援を行っており、事業所内で強度行動障害支援の中核を担っている方 ・事業所長の推薦を受け、全3回連続して出席できる方 ・スマートフォン／タブレットのアプリを用いた記録およびグループチャットを用いた情報共有が可能な方（事業所に機器がない場合はご相談ください）
申込方法	申込書、推薦状に必要事項をご記入の上、下記お問い合わせ先までメールまたはFAXにて送信してください。 ※FAXにてお申込みの場合、送信後に下記のお問い合わせ先までお電話下さい。
申込期日	10月17日（月）から11月4日（金）必着
参加決定	参加の可否については、11月17日（木）までに、文書にて「参加決定通知」を郵送いたします。
個人情報の取り扱い	本研修に関する個人情報は、国立のぞみの園が適切に管理します。

★ 参加する皆様へお願い

実践検討・意見交換会では、行動障害がある実際の事例を用いて、支援の実施、記録、検討等を行っていきます。参加にあたっては、事例対象者への説明と同意書の提出が必要となります。
※参加が決定した方には同意書をお送りしますので、事例対象者へ説明のうえ、同意書の提出をお願いします。

独立行政法人 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

事業企画部研修・養成課（担当：槻岡、長井）

〒370-0865 群馬県高崎市寺尾町2120-2

TEL：027-320-1357 FAX：027-320-1368

MAIL：nozomi-seminar-01@nozomi.go.jp

お問い合わせ先

参加申込書

法人／事業所名	／		
事業所所在地	〒		
電話番号		FAX番号	
メールアドレス	@		
(ふりがな) 氏 名		役 職	
支援経験年数	年 （強度行動障害支援の経験 年）		
申込者が担当 している事業 所種別	☐ 居宅介護 ☐ 重度訪問介護 ☐ 移動支援 ☐ 行動援護 ☐ 短期入所 ☐ 生活介護 ☐ 施設入所支援 ☐ 自立訓練 ☐ 就労移行支援 ☐ 就労継続支援 ☐ 共同生活援助 ☐ 重度障害者等包括支援 ☐ その他（ ）		
事業所共有機器 の有無	☐ スマートフォンあり （ 台 ） ☐ タブレットあり （ 台 ） ☐ なし	※機器あり答えた方のみ ☐ 機器へのアプリ等のダウンロード可 ☐ 機器へのアプリ等のダウンロード不可	
参加理由			

推 薦 状

令和 年 月 日

「令和４年度強度行動障害支援者養成研修 実践検討・意見交換会」の参加者として、上記の者を推薦する。

所属長氏名 印

令和4年度 実践検討・意見交換会 プログラム

第1回 令和4年12月1日（木）

P r o g r a m		
9:30～	受講者等 入室開始	
10:00～10:10	主催者挨拶、オリエンテーション	
10:10～10:25	研究の概要とパッケージ実施マニュアルの説明	
10:25～12:45	【講義】 ICF情報把握・共有システム（ICFシステム）記入・活用について	【講師】北海道大学 教授 安達潤 氏
12:45～13:35	昼休憩（50分）	
13:35～13:55	グループワーク①	
13:55～15:35	【講義】 記録から支援を考える	【講師】鳥取大学 教授 井上雅彦 氏
15:35～15:55	グループワーク②	
15:55～16:00	事務連絡（次回までの確認等）	

第2回 令和5年1月13日（金）

P r o g r a m		
12:30～	受講者等 入室開始	
13:00～13:10	事務連絡	
13:10～14:40	【講義・演習】 ICFからQOL支援を考える	【講師】北海道大学 教授 安達潤 氏
14:40～14:50	休憩（10分）	
14:50～16:20	【講義】 行動の機能から支援を考える	【講師】鳥取大学 教授 井上雅彦 氏
16:20～16:30	事務連絡（次回までの確認等）	

第3回 令和5年3月1日（水）

P r o g r a m		
12:30～	入室開始	
13:00～13:05	事務連絡	
13:05～14:00	グループワーク① ・進捗確認 ・パッケージ試行に関する意見交換	
14:00～15:10	全体共有 ・実践の状況 ・パッケージ試行について 等	
15:10～15:20	休 憩（10分）	
15:20～15:30	研究事業について ・研究説明等	
15:30～15:55	グループでの意見交換	
15:55～16:20	全体での意見交換	
16:20～16:30	・事務連絡 ・閉会の言葉	

実践検討・意見交換会

第1回目 令和4年12月1日（木）

実践検討・意見交換会の目的

- ・ 国立のぞみの園が実施した令和3年度厚生労働科学研究において、
 - ・ 障害特性や強み等本人の全体像の把握
 - ・ 記録の効率化や支援者間での円滑な情報共有を行いやすくすることを目的に、ICFとICTを活用した支援パッケージを作成した。

・【目的1】

本実践検討・意見交換会では、実際の事例に対し、支援パッケージを実践し、ICFとICTを活用する効果や課題を抽出し、支援現場での浸透に向けた改善を行う。

・【目的2】

事業所内でチームの中心となり、強度行動障害支援の中核となる人材を養成する。

令和4年度厚生労働科学研究の趣旨

・【研究名】

強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の構築のための研究

・【研究の目的】

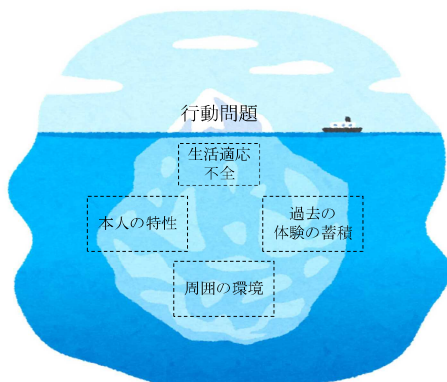
強度行動障害支援における指導的人材に必要な要素と指導的人材等を核とした地域支援体制構築の視点を整理し、複数地域で試行・検証することで、全国での地域実装に向けたプロセスを明らかにすること

イントロダクション

ICFシステムと行動観察システムによる 冰山モデルの精緻化

安達 潤（北海道大学）
井上雅彦（鳥取大学）

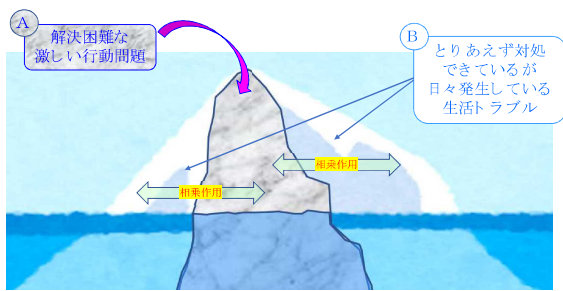
いわゆる・・・行動問題の冰山モデル



冰山を拡大して透視してみると・・・

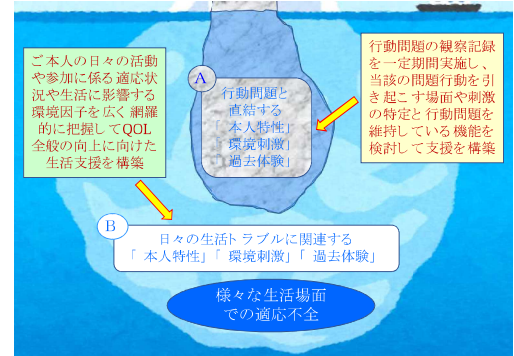


水面より上ではどうなっているか？



BによるQOLの全般的低下に加え、Aによる焦点的生活崩壊が起こっている。AとBの相乗作用によりAの解決はより困難となり、QOLはさらに低下していく。

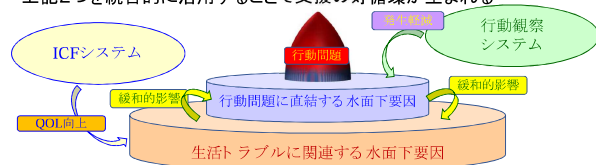
水面より下の状況と支援の基本戦略



Aの潜在要因とBの潜在要因は異なることが多いため、Aの解決方略はBの軽減につながらず、BによるQOL低下が新たなAの発生を呼び込む場合もある。

本研究におけるICFと行動観察システムの位置づけ

- ICFシステム
 - 活動と参加シート
 - 環境因子シート
 - 強みと有効な支援の活用
 - 生活全体の適応状況を環境要因を含めて網羅的に把握する。
 - 利用者さんの細かな生活適応を改善しQOLを向上させる日々の環境調整支援を検討
 - 過ごしやすい快適な生活を提供し、行動問題の発生を間接的に抑える。
- 行動観察システム
 - Observation Sheet
 - Observation 2
 - 特定の行動と環境の関連性を明らかにする。
 - 対象となる行動の観察・記録を積み上げ、1日の中でのその様相を把握する。
 - 環境調整を行うことで、環境との関係性を変化させ当該行動を生じにくくする。
 - 当該行動の意味(機能)を検討し、代替する適応的行動を支援する。
 - 環境調整
 - 機能的アプローチ
- 上記2つを統合的に活用することで支援の好循環が生まれる



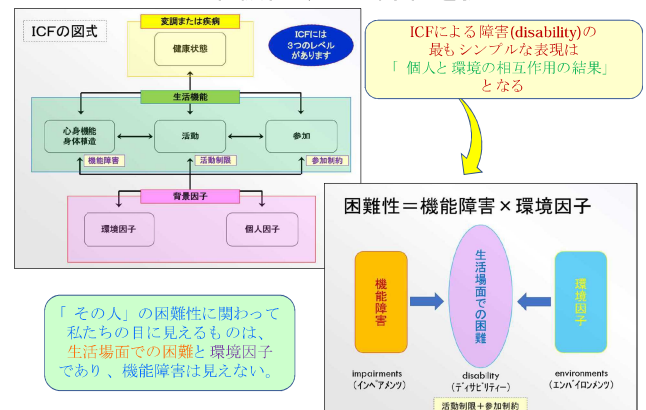
令和4年度厚生労働科学研究費補助金事業 実践検討・意見交換会

ICF情報把握・共有システム (ICFシステム)記入・活用について

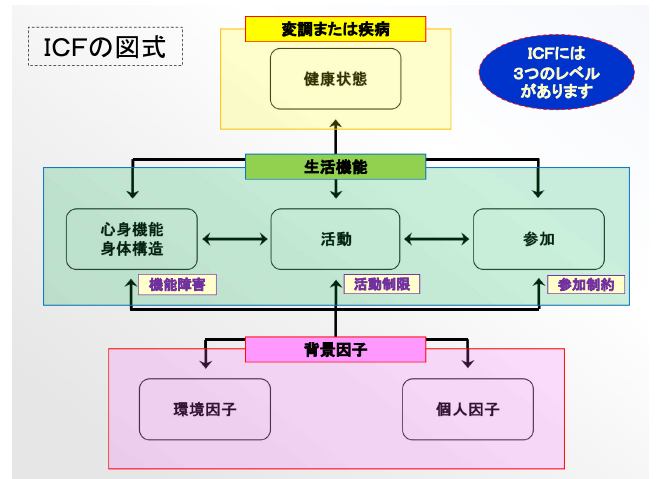
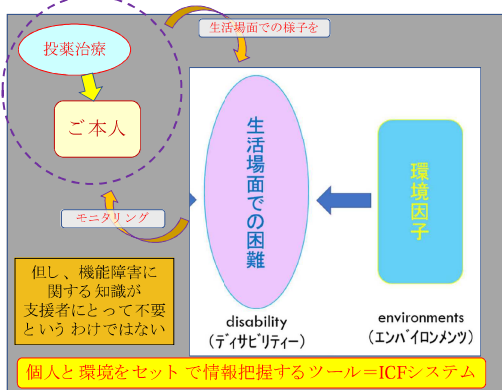
強行厚労科研(日誌班)
北海道大学大学院教育学研究院 安達潤

ICFシステムについて

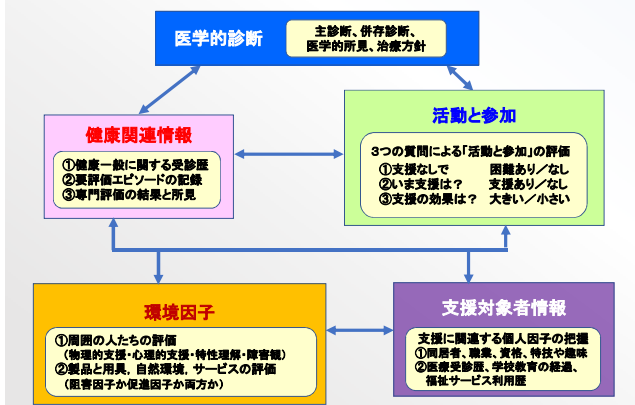
ICFの生活機能観から障害を捉える



医師以外の支援者が主に焦点化すべき範囲



ICF情報把握・共有システム(5つのシート)



ICFシートの説明

活動と参加の章構成

- 第1章 「学習と知識の応用」
- 第2章 「生活の中で求められる課題」
- 第3章 「コミュニケーション」
- 第4章 「運動・移動」
- 第5章 「セルフケア」
- 第6章 「家庭生活」
- 第7章 「対人関係」
- 第8章 「遊び・教育・仕事や経済活動」
- 第9章 「コミュニティライフ・市民生活・社会生活」

情報把握とデータ整理表

- ・活動と参加シート
- ・環境因子シート

個人と環境をセットで捉えるための
中心的な2つのシート

活動と参加（情報把握アルゴリズム）

1. 目的を持って五感（視・聴・嗅・味・触）を使うこと

五感を使って知識や情報を得たり、学んだりすること。周囲の状況を確認したり、物のいろいろな特徴を確認するために、(d110)見たり、(d115)聞いたり、(d120)嗅いだり・味わったり・触ったりすること。

d110) 目的をもって見ること
(物の色や形を確認する、動く物を目で追う、人の様子や行動を見る、スポーツ行事や子どもが遊ぶ様子を見る。)

①支援なしの場面では

☐困難あり

☐困難なし

☐詳細不明・非該当

②いま支援があるかどうか

☐支援あり

☐支援なし

☐スキップ

③支援の効果は

☐大きい

☐小さい

☐スキップ

補足情報（①困難の状況、②支援の内容、③支援の効果、④その他）

①困難の状況：

②支援の内容：

③支援の効果：

④その他：

「活動と参加シート」情報把握の留意点

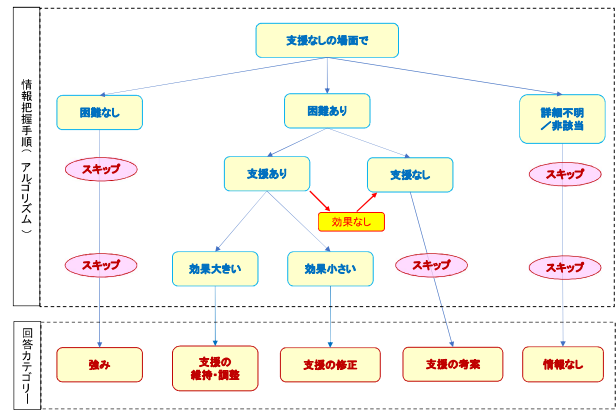
「活動と参加」シート 3つの質問 記入のしかた

①支援なしの場面では ☐困難あり ☐困難なし ☐詳細不明・非該当
質問1では、支援なしの場面で少しでも困難があれば「困難あり」を選択して下さい。「困難なし」は、項目が示す内容を、支援なしでも独力で達成できる場合に選択して下さい。

②いま支援があるかどうか ☐支援あり ☐支援なし ☐スキップ
質問2は、質問1で「困難あり」を選択した場合に回答します。それ以外では「スキップ」を選択してください。支援のあり・なしについては、なにか少しでも支援をして少しでも効果があれば「支援あり」を選択、何も支援をしていないか支援をしていても効果がゼロであれば「支援なし」を選択して下さい。

③支援の効果は ☐大きい ☐小さい ☐スキップ
質問3は、質問2で「支援あり」を選択した場合に回答します。それ以外では「スキップ」を選択してください。支援の効果については、困難さの軽減が見られており支援の継続あるいは微調整でよい場合には「大きい」を選択して下さい。困難さの軽減が見られなかったり少しだったりするために、今後の支援効果の見極めあるいは支援の修正が必要である場合には「小さい」を選択して下さい。

（活動と参加シート ver1.31）



活動と参加の情報把握アルゴリズムと回答カテゴリー

活動と参加シート（データ整理表）

【強み（支援なしで困難なし）】					
項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	補足情報	
強み	d121) 声による情報伝達	困難なし	スキップ	スキップ	①困難の状況：音声での指示や質問は理解できる。 ②支援の内容： ③支援の効果： ④その他：なし
支援の維持・調整	d137a) 物の種類の概念学習	困難あり	支援あり	大きい	①困難の状況：言葉で尋ねても、まだまだできていないが、おやつは大きい物を取る。 ②支援の内容：円形形の大小の絵カードを出して、何回か毎回確認すれば、カードにあった種を撮ることができる。 ③支援の効果：円形のものについては、大小の区別がつかないでいる。ただし、重さや長さはまだできていない。 ④その他：なし
支援の考案（困難ありで支援なし）	d177) 意思決定すること	困難あり	支援あり	大きい	①困難の状況：お昼や食後の物など、選ぶ場面では考えてからではなく、衝動で選んでいる様子。 ②支援の内容：選択肢を2つ出して、すぐに取れないようにする。 ③支援の効果：衝動で選ぶことは減って、見比べから決めるようになってきた。繰り返し続けると、4個目くらいから気持ちがいらいらしてきて、できなくなる。 ④その他：なし
【支援の考案（困難ありで支援なし）】					
項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	補足情報	
支援の考案	d110) 目的をもって聞く	困難あり	支援なし	スキップ	①困難の状況：名前を呼んでも反応しないことが多い。一方、あまのうみぬめを呼ぶときは反応して動いてくれる。 ②支援の内容： ③支援の効果： ④その他：なし

環境因子

- 第1章 「製品と用具」
- 第2章 「自然環境と人間がもたらした環境変化」
- 第3章 「物理的支援と心理的支援」
- 第4章 「特性理解と障害観」
- 第5章 「サービス」

環境因子（周囲の人たち①）

第3章 物理的支援と心理的支援 / 第4章 特性理解と障害観
(周囲の人たち)

注1) 物理的支援とは「具体物による支援や身体的な支援」のこと。「具体物による支援」は例えば、絵や文字で情報伝達する、スケジュールを事前提示する、タイマーを使う、漢字にフリガナを振る、文字を読みやすい大きさにするなど。「身体的な支援」は例えば、衣服の着脱・洗髪や爪切り・物や道具を使うことなどを手伝う、わかりやすい話し方をする、(危険回避のために)手をつないで歩く、など。

注2) 心理的支援とは「心理的な安定につながる支援」のこと。例えば、ほめる、なぐさめる、安心させる、元気づける、気持ちを落ちつかせる、受容的に関わる、自信や自己肯定感を支える、など。

注3) 特性理解とは「対象児者の生活上の困難さを見者の特性の観点から理解すること」で、例えば、課題に長時間取り組むことの難しさを注意機能の問題として理解することなど。障害観とは「障害に対する考え方や信念」で、拒否的（抵抗感あり）または受容的（抵抗感なし）に障害を捉えること。

（環境因子シート ver1.31）

環境因子(周囲の人たち②)

1. 物理的支援と心理的支援、特性理解と障害観：家族や親族

(e310) 家族（配偶者・両親・祖父母、里親、養父母）や(e315) 親族（伯（叔）父・伯（叔）母、姪・甥など）の対象児者に対する物理的支援と心理的支援。また対象児者の特性に対する(e410) 家族や(e415) 親族の理解、障害に対する考え方や信念。

e310) 家族や近い親族の物理的支援と心理的支援

(配偶者、両親、兄弟姉妹、子、里親、養父母、祖父母など家族や近い親族の物理的支援と心理的支援。)

①対象児者への物理的支援：家族等に☐ 助言が必要☐ 助言は不要☐ 詳細不明・非該当

②対象児者への心理的支援：家族等に☐ 助言が必要☐ 助言は不要☐ 詳細不明・非該当

補足情報（①物理的支援の状況や助言の内容、②心理的支援の状況や助言の内容、③その他）

①物理的支援：
②心理的支援：
③その他：

e410) 家族や近い親族の特性理解と障害観

(配偶者、両親、兄弟姉妹、子、里親、養父母、祖父母など家族や近い親族の特性理解と障害観。)

①対象児者の特性理解：家族等に☐ 助言が必要☐ 助言は不要☐ 詳細不明・非該当

②障害観(考え方や信念)：家族等に☐ 抵抗感あり☐ 抵抗感なし☐ 詳細不明・非該当

補足情報（①特性理解の程度や助言の内容、②障害観、③その他）

①特性理解：
②障害観：
③その他：

人以外の環境因子(自然環境)

2.2. 光、音、匂いなど

(e240) 光や(e250) 音、(e260) 匂いや空気の質といった環境刺激

e240) 光

(自然光、蛍光灯、白熱灯など光の種類、光の強度、コントラストや陰影、輪郭などの光の質)

①(阻害) 生活に悪影響をもたらす光の種類、強さや質：☐ あり☐ なし☐ 詳細不明・非該当

②(促進) 生活に好影響をもたらす光の種類、強さや質：☐ あり☐ なし☐ 詳細不明・非該当

補足情報（①悪影響の内容、②好影響の内容、③その他）

①悪影響：
②好影響：
③その他：

人以外の環境因子(製品と用具)

1.6. 学習場面や仕事の場面で使う製品と用具

(e1300) 学習場面や(e1350) 仕事の場面で個人が使う製品と用具。また障害特性を考慮して使いやすいように作られたり改造された(e1301) 学習用や(e1351) 仕事用の製品と用具。

e1300) 学習のための一般的な製品と用具（改造や特別な設計なし）

(書籍、冊子、教育用の玩具や用具・道具、コンピュータのハードウェアやソフトウェア、など。)

①(阻害) 学習に悪影響をもたらす学習用の製品や用具：☐ あり☐ なし☐ 詳細不明・非該当

②(促進) 学習に好影響をもたらす学習用の製品や用具：☐ あり☐ なし☐ 詳細不明・非該当

補足情報（①悪影響の内容、②好影響の内容、③その他）

①悪影響：
②好影響：
③その他：

環境因子シート（データ整理表）

【周囲の人たち】									
	項目タイトル	物理的支援	心理的支援	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
項目1	e310) 家族や近い親族	補足情報	補足情報	①対象児者の特性、生活の質や生活の質を高めるための工夫が必要。②対象児者の生活の質を高めるための工夫が必要。③対象児者の生活の質を高めるための工夫が必要。	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
項目2	e315) 親族	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
項目3	e315) 友人、兄弟、地域の人間	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
項目4	e315) 友人、兄弟、地域の人間	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
【悪影響と好影響を検討】									
	項目タイトル	悪影響	好影響	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
悪影響	e460) 社会全体の価値観、習慣、文化、宗教など	あり	あり	①障害を特別に受け入れて育てていくという信念がある。②どんなことでも受け入れて育てていくという信念がある。	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
好影響	e1200) 屋内外の移動のための乗り物や公共の交通手段（改造や特別な設計なし）	あり	あり	①三輪車はまだ乗れない。バスは乗客が横で乗れない。②自転車用で乗れば乗れる。	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
【好影響を検討】									
	項目タイトル	悪影響	好影響	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
悪影響	e11500) 一般的な遊び用の製品と用具（改造や特別な設計なし）	なし	あり	①くるくるチャイルドやイタズラボックスが大好きで、集中して遊んでいる。	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報
好影響	e1250) 情報の伝達や関係、コミュニケーションのための製品や用具（改造や特別な設計なし）	なし	あり	①幼児向けのテレビを見て、歌などを覚えている。	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報	補足情報

医学的診断シート

医学的診断				
精神科疾患	主診断1		主診断2	
	自閉症		注意欠陥多動性障害	
	ICD-コード	ICD-版	ICD-コード	ICD-版
	F84.0	10	F90.0	10
	併存診断1		併存診断2	
精神科以外の疾患	ICD-コード	ICD-版	ICD-コード	ICD-版
	主診断1		主診断2	
	併存診断1		併存診断2	
医師の 所見	自閉症と注意欠陥多動性障害の両症状が併存していることによって、状況理解の難しさ、衝動性や不注意と合わせて、本人の適応不全の背景となっている。			
医学的 治療方針	情報処理の負担が少ない、できるだけシンプルな環境において、本人が関心を示すテーマの活動の中で、注意をコントロールする感覚を体験してもらったことを大切にする発達支援が求められる。また、場面に応じて本人の困り方を保護者に伝えることも重要である。			

他3つのシートのデータ整理表

- 医学的診断
- 健康関連情報
- 支援対象者情報

健康関連情報シート

評価項目等(2) 入題(46～50)				
1. 1年用(1～10)	その1年用には3種類あったが、10科目毎に3種類あり、3年次の3年用と同一。			
2. 2年用(11～20)	同じ			
3. 3年用(21～30)	同じ			
4. 4年用(31～40)	同じ			
5. 5年用(41～50)	同じ			
6. 6年用(51～60)	同じ			
7. 7年用(61～70)	同じ			
8. 8年用(71～80)	同じ			
9. 9年用(81～90)	同じ			
10. 10年用(91～100)	同じ			

支援対象者情報シート

[illegible]

尺度(物差し)ではなく視点の集合体

3) 情報把握・共有システムの特徴

- ①情報把握・共有システムは「支援に関連する情報の包括的把握」を実現するためのものです。
②情報把握・共有システムはいわゆる「評価尺度」ではありません。

知能検査は代表的な「評価尺度」ですが、これは知能を測定する尺度（ものさし）であり、評価対象者の知能水準が一般集団の中のどの辺に位置するかをIQ値で示すものです。これに対して情報把握・共有システムは支援対象児者の支援関連情報を包括的に集約することによって、支援対象児者の特徴を周囲の環境の影響も合わせて全体的に把握するためのものです。

その人の生活に届く支援を考えていくためには、
その人が実際の生活の中で、どんな人として生活をして
いるのかを理解し、関係者が共有することが必要。
評価尺度で得られることもあるけれど、得られないこともある。

「活動と参加」の記入

Excel版 活動と参加 情報把握シートへの記入の流れ

14. 商業や活動の目的、自らの責任(※：大・児童用、小・幼児と幼児用で選別)					
項目番号	項目タイトル	大・児童用	小・児童用	大・児童用	小・児童用
221ba	一つの商業や活動チームですること	商業あり	支援あり	大・児童用	小・児童用
222ba	複数の商業や活動を「人ですること	商業あり	支援なし	スキップ	○
223ba	日曜(日)の夜のおきりの商業や活動(小・児童用)ですること	商業なし	スキップ	スキップ	○
221bb	指導者と協力して一つの商業や活動をする	指導者あり	支援あり	大・児童用	小・児童用

- ①赤枠3つの質問に回答する。
- ②補足情報を記入する。

※「チェック」欄が○になるように回答してください。

※回答パターンが正しくない場合は
×が記入されます。

Excel版 活動と参加 情報把握シートの説明メモ

- 各項目番号や項目群の見出しにカーソルを置くことによって、その説明文が表示されます。

第1章 学習と知識の応用			
1. 目的をもって（わがうとして、足らうとして）五感（視・聴・嗅・味・触）を使うこと。			
項目番号	John Adams:	支援なしで 支援ありで	反復回数
d110	John Adams: 目的を持って見る、嗅ぐ、触る、聞く、入る行為の目的を見出す。この4つが大事だと教える様子を学ぶ。		17分
d115	目的をもって聞く		17分

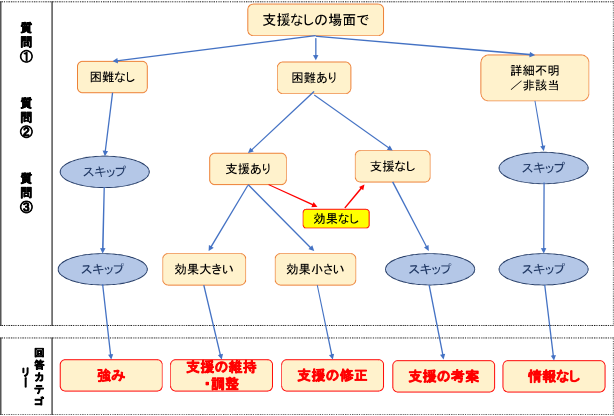
John Adams: 五感を使う。7段階の経験を得たり、学んだりすること。五感を使うことは、学ぶこと。物や人、そのものの性質を知らずして「覚えた」といふのは、大のやがて覚えることを（1）記憶して、確認して、（2）思いの通りに動かして、（3）思い通りに（4）使い（5）慣れ（6）て、（7）覚え（8）たりして覚えること。

（注）感覚遊び（その感覚が都度で新しい）と目的を持ってやる（目的を達成し続ける）は別物だとする。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- ・活動と参加の見出しや各項目の内容を確認したい場合には、これらの説明文を参照して下さい。

活動と参加の情報把握手順と回答カテゴリー



「活動と参加」質問①記入の視点

- 項目の内容について、支援なしでうまくできていないと感じる具体的場面を思い浮かべる。
- その場面で少しでも困難がある場合
→ 「困難あり」(補足情報に具体的に記入する)
- 該当する場面がない場合
→ 「困難なし」(質問②③は「スキップ」)
- 該当する場面を知らない、機会がないため判断できない等把握できていない場合
→ 「詳細不明・非該当」(質問②③は「スキップ」)

「活動と参加」質問②記入の視点

◆質問①で「困難あり」の場合

- 少しでも支援が行われていて、少しでも効果がある場合
→ 「支援あり」
- 何も支援が行われていない場合
→ 「支援なし」
- 支援を行っていても効果がない場合
→ 「支援なし」

記入上
留意下さい

◆質問①で「困難あり」以外の場合

- 「スキップ」を記入する

「活動と参加」質問③記入の視点

◆質問②で「支援あり」と記入された場合

- 困難さの軽減が見られていて、支援の継続または微調整でよい場合
→ 「大きい」
- 困難さの軽減が見られない、少しであり、支援の修正等が必要な場合
→ 「小さい」

◆質問②で「支援なし」と記入された場合

- 「スキップ」を記入する

「活動と参加」補足情報の記入の視点

- 補足情報には日頃の関わり(観察)から、①困難の様子、②行っている支援、③支援の効果の大小、について具体的に書く
- 推測したことや対象者の気持ちではなく、必ず実際に見聞きしたことを具体的に書く
- 補足情報④には、その項目に関して推測したことや、その項目の支援に関係ありそうなこと(他の場面で見聞きしたこと等)を書く
- 質問①が「困難なし」となり、対象者の様子について特に記載した方がよいことがあれば、補足情報④に記載しておく。具体的な強みは支援に活かせることがあるため。

「活動と参加」記入例(1章)

1. 目的をもって(あらかじめとして、知らずとして)活動(動・聴・視・触)を使うこと。					
項目番号	項目タイトル	支援なしで	いまだ支援は	支援効果は	補足情報
d110	目的をもって見る	困難あり	支援なし	スキップ	C ①許容範囲内で見ることができず、目移りが激しい。一方、興味のある家畜などはじっと見ている。
d115	目的をもって聞く	困難あり	支援あり	大きい	C ①言語理解も理解できることにはあるが、音響的な音質になると理解できず不安定になる ②絵カードを提示することで指示されていることがわかる
d120	目的をもって触る・嗅ぐ・味わう	困難あり	支援あり	大きい	C ①興味のある家畜を触り、観察する。 ②こだわりの強い飼育員は慣れ、本人の目につかないようにする。 ③必要な家畜は、ケースに入れることで、観察行為はない。
1.0. 飼育員に注意を集中すること、課題が終わるまでは目を離さないこと					
項目番号	項目タイトル	支援なしで	いまだ支援は	支援効果は	補足情報
d100	飼育員に注意を集中すること	困難あり	支援あり	小さい	O ①活動中に飼育員にトイレに行く ②タイマーを活用したり、活動終了後に本人の好きなものを取り入れることで注意を集中できるようにする ③活動時間に変化はない
d161	飼育員や作業が終わるまでは目を離さないこと	困難あり	支援あり	小さい	O ①活動中に飼育員にトイレに行く・車庫を閉める ②本人の興味のある家畜の姿に注意する ③飼育員は活動に集中できるが、途中で課題を離れ始める

「活動と参加」記入例(2章・3章)

ある。作業と行動のストレスに対しては「距離」に応じた「行動」コントロール						
項目番号	項目タイトル	支援なし は	支援支援 は	支援支援 は	チェック	備付事項
d240	ストレス（不安）を伴う「作業」或「行動」の遂行	困難あり	支援あり	小さい	○	①作業量が多い、苦手な活動は物を頼ってできない状況で自分でやる ②作業量の調整及び本人の好きな活動を取り入れる ③職員として先行「行動」を含めるため、人員不足により実行できない可能性がある
d250	車道に応じた「行動」コントロール	困難あり	支援あり	大きい	○	①好きな事のあると、危険を顧みず進んで行く ②建物のあるは、必ず帰りがけさそう ③職員がそばにいない時には、急な飛び出しは見られない

17. 話し言葉や声、表情やジェスチャーによるメッセージの理解

項目番号	項目タイトル	実況能力 は	主実況は は	実況後援 は	タグ	説明と評価
4310a	読み書きで書かれたメッセージの解釈	読取りあり	実況あり	小さい	○	1) 読み書きの両方の機能はあるが、読取側のみは読取専用 2) 読取側はメッセージを包むのに限界がある
4310b	中で与えられたメッセージの解釈	読取りあり	実況あり	小さい	○	1) 本来的な書きがたいが、立ちまよることはできる内容 であるに類似している 2) 読取側はない 3) 読みまよることはできるが、内容まよるは読取である 基本部分に、読取側がたいではない
4310c	発信メッセージが伝わるメッセージの解釈				○	1) 読取側の読取に類似 2) ○、×、の読取にメッセージは読取である 3) ○、×、だけでは、伝わるメッセージは読取に類似して

「活動と参加」記入例(7章・8章・9章)

4-1 一般的人対人関係		友交ないで	いさ友交は	友交関係は	友交	関係特徴
d170	見かけの対人関係	無関係	交感ない	交感ない	○	下層の人間関係のベースで生きていても氣にならなくともよい。自分のものを壊れても氣にならない。 2. 他人と自分と他人との界をわける。 3. 他人の行動が自分にも影響を及ぼすことではない。
d720	浅薄な対人関係	無関係	交感ない	交感ない	○	1. 浅薄な人間。見かけのよい。対人力もさう不安定になる。 2. 見かけによらずには本人はいい人物でも本人に自己に劣る者などとは本人に敵対する。浅薄い。利用者のように他人に利用される。

48. 一人でまたは誰かと遊ぶこと

項目番号	項目タイトル	文段なし で	文段あり	文段効果 は	チェック	補足情報
d880	一人または誰かと遊ぶこと	困難あり	文段あり	大きい	○	①ラジオセットを使用し、音楽を聴くことを好む ②音楽を聴ける環境を築ける ③会話の機会を一人で与えることができる

57. コミュニティライフ

項目番号	項目タイトル	実証実験 は	小企業支 援は	支援事業 は	共有	担担情報
0101	コミュニケーション	実施あり	支援あり	小さい	○	① 企画になつた行動が困難、不安定時には大所を上げる ② 企画内行事の準備会やイベントに参加 ③ ロゴ社にあり、経験値を上げることは少なかつた
0102	レクリエーションとレジャー	実施あり	支援あり	小さい	○	① 企画になつた行動が困難、不安定時には大所を上げる ② 企画内行事のレクリエーション、ドライブ等に参加 ③ ロゴ社にあり、経験値を上げることは少なかつた

「活動と参加」記入例(4章・5章・6章)

30. 手や指、手や指を使って物を操作すること					
項目番号	項目タイトル	支援なしで	いさ支援は	実受効果	備考
d410	細かな手の動き（手や指の連続動作）で物を扱うこと	困難あり	支援なし	スキップ	○ 2項目の活動内容が明確で、あらかじめ手の動きは可能（タジコなど）のホックキスなど
d445	手と腕をうまく使って物を扱うこと	困難あり	支援あり	小さい	○ 一連の動作が可能であるが、最終的には視覚が必要 ○ 動作内容は自励具等の活用が必要 ○ 最終確認が必要

36. 食べることと飲むこと

項目番号	項目タイトル	支援なしで	いさ文板	支援時	評価	解説/留意
4350	食べることに	困難あり	文板あり	大きい	(○)	①食事のきかれいへに食べることができるが、唾液等細かい食べ物が出ると食事を見送る、量別ありに偏する行為が見られる ②給食で出る野菜については代替品で対応する ③食事ごとなく、食べたいは食事をする

40. 家事をすること

項目番号	項目タイトル	支援なし	halfway 支援	支援強化	特徴	担当機関
d0c0	調議をすること	無関係あり	支援あり	大きい	○ 山師職のそばについて、和服を子供ることがあった ○ 伝統的な音楽と見守り ○ 意見を見せると、笑顔の表情の手伝いは可能	
d0d0	調議以外の家事をする事	無関係あり	支援あり	小さい	○ 食卓の片づけ、洗濯に慣れ、関心がある ○ 見守り、して、また手元利用は困難 ○ 遊びと集める 一緒に慣れ ○ 宗門員の参加状況により 仕事として定着していない	

「活動と参加」記入例;よくない例
(改善の余地がある)

d250	場面に応じた行動のコントロール	困難あり	支援あり	大きい	○	①好きな事があると、危険を顧みず走って行く ②建物の方では、必ず職員がつかまそう 職員がそばにいる時は、急な飛び出しは見られない
d3151	記号やシンボルの理解、絵や写真の理解	困難あり	支援あり	大きい	○	①絵や写真の理解はできる ②スケジュールに絵カードを使用 ③絵カードを確認し、行動に移ることができる ④興味のないことはあきらめてやめしてしまう ⑤興味のある活動を提示する ⑥自分の好きな活動の席に同じ姿勢で過ごすことができる
d415	同じ姿勢を保つ（姿勢の保持）	困難あり	支援あり	大きい	○	①興味のある言葉を聴き、破壊する ②かなりの強い風雨風扇に耐え、本人の目につかないようにする ③必要な言葉は、ケースに就けることで、破壊行為はない
d120	目的をもって触る・嗅ぐ・味わう	困難あり	支援あり	大きい	○	

どこに改善の余地があるか考えてみましょう

「活動と参加」記入例；よくない例のよくない点

①好きな車があると、危険を顧みず走って行く
②建物の外では、必ず職員がつきそう
③職員がそばにいる時には、急な飛び出しは見られない
④絵や写真の理解はできる
⑤支援時に絵カードを使用
⑥絵カードを確認し、行動に移ることができる
⑦興味のないことからはずくにやめてしまう
⑧興味のある活動を提供する
⑨自分の好きな活動の時には同じ姿勢で過ごすことができる
⑩興味のある家電を触り、破壊する。
⑪こだわりの強い扇風機は撤去し、本人の目につかないようにする。
⑫必要な家電は、ケースに入れることで、破壊行為はない

「活動と参加」記入例;よくない同様の例
(改善の余地あり)

d155	日常生活に必要な行為やスキルの習得	困難あり	支援あり	小さい	○	①物の扱いの加減ができない ②自助具の活用 ③こだわりが強く、一度獲得した方法を変更することが困難
------	-------------------	------	------	-----	---	---

状況が具体的にわからない／「こだわり」→方法変更の必要度は？

g2310	他者と協力して日課(日々の決め りの作業や活動)を行うこと	困難あり	支援あり	小さい	○	①自分のスケジュールだけでなく、他の人の動きを見て活動 に参加しようとしていることがある ②自分のスケジュールを確認してもらう ③指示されれば修正できるが、その後気持ちが大不安になる
-------	----------------------------------	------	------	-----	---	--

具体的場面がわからないため、改善すべきポイントが見えない。

d310a	話し言葉で伝えられたメッセージの理解	困難あり	支援あり	小さい	○	①日常的な言葉の理解はあるが、複雑なことは理解困難 ②一語文で伝える ③一語文ではメッセージを伝えるのに限界がある
-------	--------------------	------	------	-----	---	---

「日常的な言葉、複雑なこと」の具体的内容がわからない

Excel版 環境因子
情報把握シートの説明メモ

- 各項目番号や項目群の見出しにカーソルを置くことによって、その説明文が表示されます。

第1章 製品と用具

1.2. 食べ物や飲み物、薬や栄養補助剤				※ Jax Attack!
項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する視点	製品	状況把握	補足情報
e110a	Jax Attack! ①生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理 ②生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理 ③生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理 ④生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理		把握状況	①生活習慣、生活習慣下の食品とその状態: ②好影響、生活習慣上の食品とその状態: ③その他:
e110b	Jax Attack! ①生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理 ②生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理 ③生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理 ④生活習慣(食・寝)や飲み物、加工・調理		把握状況	①好影響となる食品とその状態: ②好影響となる食品とその状態: ③その他:

- 環境因子の見出しや各項目の内容を確認したい場合には、これらの説明文を参照して下さい。

「環境因子」の記入

周囲の人たち
(3章・4章)記入の視点

- 「助言が必要」や「抵抗感あり」に一人でも該当する場合にチェックする
- 補足情報には、誰にどのような助言が必要か、誰がどのような抵抗感を感じているのか、状況や配慮事項等について記載する

(例)

※家族の物理的支援について、母は理解しているが、父は理解していない場合→「助言が必要」補足情報「父に情報提供が必要」

※祖母に抵抗感がある場合→「祖母と対象者についてじっくり話を聞く機会を持つことが必要」

「環境因子」記入例(3章・4章)

1. 物理的支援・心理的支援・特性理解と障害：家族や親類				
項目番号	項目タイトル	製品	状況把握	補足情報
e30	家族や近い親類の物理的支援と心理的支援	物理的支援 心理的支援	必要 必要	①物理的支援：簡単な言葉（単語）が理解できるため、言語面で悩まれている ②心理的支援：本人が理解できないことに対して、暴力や暴力で強いてしまう ③その他：人種、家族から離れたことでも本人、両親ともに不安定な生活が送れている
e40	家族や近い親類の特性理解と障害	特性理解 障害	必要 必要	①特性理解：本人が何に悩んでいるのか、なぜ問題行動を起こすのかを理解しようとしている ②その他：障害は受けているが、障害がある故に「本人が悩んでいる」という認識はない

人以外の環境因子
(1章・2章・5章)記入の視点

- 「生活のしづらさ／しやすさ」につながる環境因子かどうか
- その項目が生活にどのように影響するかを補足情報に具体的に記載する

(例)

※例えば、同じ「光」でも、
蛍光灯は「生活のしづらさ」につながり、
白熱灯は「生活のしやすさ」につながる
※ある食べ物は体調の不調につながり、
別の食べ物は気分転換のきっかけになる。
※好きな食べ物でも食べ過ぎにつながり、
体調を崩してしまうきっかけになる

「環境因子」記入例(1章・2章・5章)

1.3. 個人が日常生活や遊びで使う製品と用具

項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する視点	製品	状況把握	補足情報
e110	日常生活で使う一般的な製品と用具（改造や特製な設計なし）		把握状況	①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ：家電製品全般、調子はあがる、使用 方法の理解がなく故障行為に陥ってしまう。特に高層階へのこだわりが強い ②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：CDラジカセ、クラシック音楽を聴い ているときは落ち着いていることが多い ③その他：高層階を落とすことで困ってしまうため、高層階を排除し、エアコンでの生 活に変更。エアコンのルーバーは外している

2.3. 気温、湿度、風速、水質や気象の変化				
項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する視点	製品	状況把握	補足情報
e225a	気温		把握状況	①不快な気温と不快時の状況：夏の暑い時期にエアコンの故障が頻発しているが、その 故障修理費用に困ってしまう ②快適な気温と快適時の状況：エアコンで 涼しさを保っている ③その他:
e225b	湿度		把握状況	①不快な湿度と不快時の状況: ②快適な湿度と快適時の状況: ③その他: 湿度に対しては不慣れであるが、4.5 度前後に湿度を調整している

「環境因子」記入例;よくない例(改善の余地あり)

項目番号	項目タイトル	生活を阻害	生活を促進	補足情報
e11520	一般的な遊び用の製品と用具（改造や特別な設計なし）	あり	あり	①不快・使いづらい遊び用品と妨げる状態：ぬいぐるみ（振り回し他人をたたく道具になる） ②快適・使いやすい遊び用品と促す状態：ぬいぐるみ（もっていると落ち着く） ③その他：
e250	音	あり	あり	①不快な音と不快時の状況：利用者の不穏な声や悲鳴 ②快適な音と快適時の状況：職員の優しい言葉かけ ③その他：
項目番号	項目タイトル	生活を阻害	生活を促進	補足情報
e1108	食べ物や飲み物	なし	あり	①悪影響・生活低下の食品とその状態：会食会、外食 ②好影響・生活上の食品とその状態：会食会、外食 ③その他：
e1150	日常生活で使う一般的な製品と用具（改造や特別な設計なし）	なし	あり	①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ： ②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：食事の際、手づかみで食べやすいサボータや使いやすい食事を提供している ③その他：

どこに改善の余地があるか考えてみましょう

「環境因子」記入例;よくない例の要改善点

補足情報
①不快・使いづらい遊び用品と妨げる状態：ぬいぐるみ（振り回し他人をたたく道具になる） ②快適・使いやすい遊び用品と促す状態：ぬいぐるみ（もっていると落ち着く） ③その他：
①悪影響・生活低下の食品とその状態： ②好影響・生活上の食品とその状態：会食会、外食 ③その他：
①不快・使いにくい日用品と生活しづらさ： ②快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：食事の際、手づかみで食べやすいサボータや使いやすい食事を提供している ③その他：

「環境因子」記入例;よい例からの気づきと支援

e260	匂いや空気	あり	あり	①不快な匂いや空気と不快時の状況：排泄物のにおいやトイレ臭 ②快適な匂いや空気と快適時の状況：消臭剤、換気 ③その他：
------	-------	----	----	---

改めて、トイレの環境整備の必要性への気づき／対象者のQOLの向上へ

項目タイトル	物理的支援	心理的支援	補足情報	特性情報	障害情報	補足情報
e310-410 家族や近い関係	助言が必要	助言が必要	①物理的支援：簡単な言葉（単語）が理解できるため、言語指導で伝わらなくて困っている ②心理的支援：本人が理解できないことに対し、言葉や表情で対応しよう ③その他：入所、退所から離れたことで本人、関係者ともに定着した生活が送れている	助言が必要	感覚過敏なし	①特性情報：本人が何に困っているのか、なぜ困っているのかを説明しよう ②障害情報：障害は発覚しているが、障害があるから「本人が困っている」という認識はない ③その他：

家族支援アプローチの方向性が共有できる。事前のリスク回避も見通せる

e1108	高や栄養補助剤	あり	あり	①悪影響となる薬とその状態： 職員との関わりを求めするために自傷行為を行い、塗り薬を要求する ②好影響となる薬とその状態：睡眠薬があるため、睡眠の薬の内容を調整し、睡眠の導入を促す物から持続する物に変更 ③その他：薬を塗る時間を決めることで、薬へのこだわりが弱った。睡眠リズムが整い、昼夜逆転がなくなった。
-------	---------	----	----	--

現状として「塗り薬→自傷→注目獲得」となっていることがわかる。純粋に薬のネガティブ効果ではないが、逆に「对人的関わりやすさ」を示すエピソードとなっている。

情報把握シート分析アプリでの情報整理

アプリで情報整理をするためには、

エクセル版の情報把握シート

（活動と参加、環境因子）に情報を記入して下さい。

エクセル版の情報把握シート

	[ID] 活動と参加 0-5y_情報入力シート ver1.0 (セル保護) .xlsx
	[ID] 活動と参加 6-16y_情報入力シート ver1.0 (セル保護) .xlsx
	[ID] 活動と参加 17y&over_情報入力シート ver1.0 (セル保護) .xlsx
	[ID] 環境因子 0-5y_情報入力シート ver1.0 (セル保護) .xlsx
	[ID] 環境因子 6-16y_情報入力シート ver1.0 (セル保護版) .xlsx
	[ID] 環境因子 17y&over_情報入力シート ver1.0 (セル保護版) .xlsx

重要な注意点

ファイル名で変更できる箇所は[ID]の部分のみです。
例えば、対象者のIDを 210323ek& に設定した場合には、
[210323ek&] のように[]内に記載して下さい。
ファイル名のそれ以外のところは絶対に変更しないで下さい！！
データ整理アプリがファイルを読めなくなってしまう。

エクセル版シートの使用上の注意

- 環境因子エクセル版シートには、[基本情報、3章・4章、1章、2章、5章のタブ]が存在しています。

18	基本情報	3章・4章	1章	2章	5章	...
----	------	-------	----	----	----	-----

- 「3章・4章」が「1章」よりも先に配置されていますが、これは「3章・4章」が「人に関する環境因子」だからです。
- 活動と参加エクセル版シートには「基本情報、1章、2・3章、4・5・6章、7・8・9章のタブ」が存在しています。

基本情報	1章	2章・3章	4章・5章・6章	7章・8章・9章
------	----	-------	----------	----------

- これらのタブの順番を絶対に変えないで下さい。
→ 変えてしまうと、分析アプリが正常動作しません。

活動と参加・環境因子両シートの 基本情報タブについての注意事項

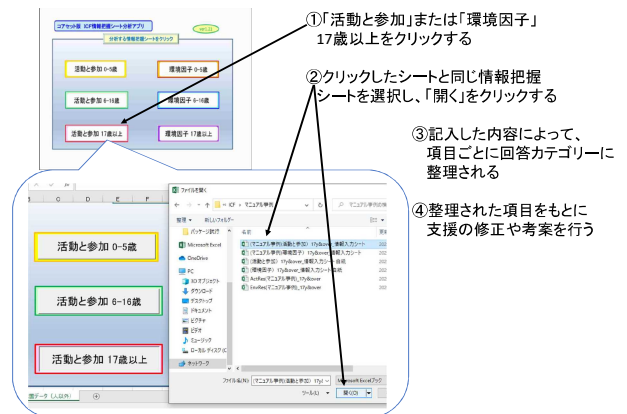
ICFコアセット 活動と参加 17歳以上 情報把握シート 基本情報									
支援チームID	支援対象者ID(必須)	イニシャル(任意)	生年月日	年齢	性別	日常生活月/日	チームリーダーID		
				121年4ヶ月					
～転写例～									
支援チームID	支援対象者ID	イニシャル(任意)	生年月日	年齢	性別	日常生活月/日	チームリーダーID		
支援者ID	対象者ID	(姓・名など記入)	2001/3/12	20年1ヶ月	男性	2020/10/15	支援者ID		

支援チームID、支援対象者ID、チームリーダーIDは個人情報を保護しつつ支援対象者を特定するためのIDです。
 「支援対象者ID」は回答分析アプリで本シートを解析した結果が書き込まれるファイル名に反映されるため（必須）です。

支援チームID、支援対象者ID、チームリーダーIDは個人情報を保護しつつ支援対象者を特定するためのIDです。
 「支援対象者ID」は回答分析アプリで本シートを解析した結果が書き込まれるファイル名に反映されるため（必須）です。

ID=smp1_Ty7%kaP と記載している場合、
 活動と参加の分析結果ファイルは [ActRes(smp1_Ty7%kaP)_17y&over.xlsx]
 環境因子の分析結果ファイルは [EnvRes(smp1_Ty7%kaP)_17y&over.xlsx] となります

アプリ使用の流れ



整理された情報の例

【支援の修正（支援効果小さい）(なし)】

項目番号	項目タイトル	情報なし	いる状態	情報あり	状況	項目情報
0132	育児に悩まらうとすること	国庫あり	実地あり	小さい	○	①本人からの声出しやビデオチャットで質問をし、答へてもらう。②必要に応じて、支援者からアドバイスを行う。③必要に応じて、支援者からアドバイスを行う。
0135	日常生活に必要な行為やスキルの学習	国庫あり	実地あり	小さい	○	①必要に応じて、支援者からアドバイスを行う。②必要に応じて、支援者からアドバイスを行う。
0100	育児に悩まらうとすること	国庫あり	実地あり	小さい	○	①必要に応じて、支援者からアドバイスを行う。②必要に応じて、支援者からアドバイスを行う。

活動と参加

【生活の阻害の側面と促進の側面を検討】

項目番号	項目タイトル	生活に阻害	生活を促進	状況	項目情報
0250	睡眠	あり	あり		①睡眠障害と生活リズムの乱れ：睡眠で生活リズムを整えることが、生活リズムを整えることにつながる。②生活リズムを整えることが、生活リズムを整えることにつながる。
0255	食事	あり	あり		①食事の摂食と生活リズムの乱れ：食事の摂食が生活リズムを整えることにつながる。②生活リズムを整えることが、食事の摂食を促すことにつながる。
0258	生活リズムを整えること（生活リズムを整えること）	あり	あり		①生活リズムを整えることが、生活リズムを整えることにつながる。②生活リズムを整えることが、生活リズムを整えることにつながる。

環境因子

「活動と参加」 整理された情報の活用の視点

- ①「強み」
他の場面での支援に活用を検討
- ②「支援の維持・調整」
支援を維持・調整すべき項目を選び、調整内容を他の項目を参考にしながら検討する
- ③「支援の修正」
支援を修正すべき項目を選び、他の項目（特に①と②＝本人のアドバンテージ項目）を参考にしながら修正内容を検討する
- ④「支援の考案」
支援を考案すべき項目を選び、他の項目（特に①と②＝本人のアドバンテージ項目）を参考にしながら支援内容を検討する
- ⑤「情報なし」
今後、情報把握すべき項目（視点）を選び、情報把握を行う

「環境因子」 整理された情報の活用の視点

- ①「周囲の人たち」
家族支援・支援を検討すべき周囲の人を選び、支援を検討
- ②「生活を阻害・促進」
阻害・促進両影響の各内容を確認し、対応を検討
- ③「生活を阻害」
対応すべき環境因子を選定、対応方法の検討
- ④「生活を促進」
該当環境因子の維持および支援における活用を検討
- ⑤「影響なし」
該当環境因子の維持
- ⑥「詳細不明・非該当」
今後、情報把握すべき項目（視点）を選び、情報把握を行う

ICFシステム全体に関する 留意事項

- 対象者の情報を把握するためには、補足情報の記載が重要。推測ではなく、事実を把握するためのシートという観点で記入する。
- 一人だけではなく、分担して記入することも可能なため、事業所内でやりやすい方法で記入してよい。
- すべての項目を埋めようとするのではなく、わからない項目については、「詳細不明・非該当」でよい。「詳細不明・非該当」の場合は、今後情報を集めていく視点をもつことが重要。
- 整理された項目の記入内容をもとに支援会議を行い、対象者の状況や支援について検討していくことが大切。

ICFシステムによる支援会議

※就学前児の発達支援における活用から
(愛知県碧南市における社会実装研究)

支援会議資料の一例(1項目分)

項目タイトル	選択理由	補足情報	具体的手がかり	支援方法
d110) 注目できる時間を持てている	①視覚優位なためリーダーに気づくまでに時間がかかりやすい ②全体の指示のみでなく個別に注目するところを指さしたり、絵カードで伝える。動いているときは人を見るように身体を止める。 ③目的に気づくことができれば見ることができ、体を止めないとなかなか注目できない。	d120)机の上(目の前)に貼止があれば触れて遊ぶことができる。 d130)足型でビツと止まることができる。 d320)次の活動が分かるまで自分ですり足ることができる。 d310)メリーのある声掛けやハッとするような声もかける。 d3150)はめられることで大々見るようになった。 d320)体を止めるなど「身振せ、手ぶりは真似する」。 d1300)炭だことある絵本を持ってきて、色を指差す、アルファベットを見て「字」と言う。	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

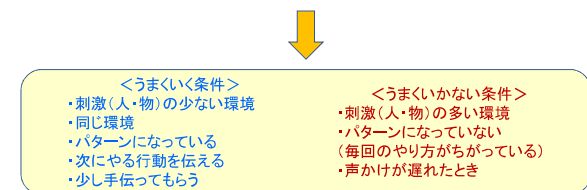
支援会議での意見交換と確定した支援法(1項目分)

支援会議での主な意見(抜粋)	支援会議で確定した支援方法と実施担当
①情報入力方法からの変化 ②具体的な手がかりの確保 ③支援の方法 ④支援者についての主な意見 ⑤支援方法	⑥いつ・誰が ⑦いつ・誰が ⑧いつ・誰が ⑨いつ・誰が ⑩いつ・誰が

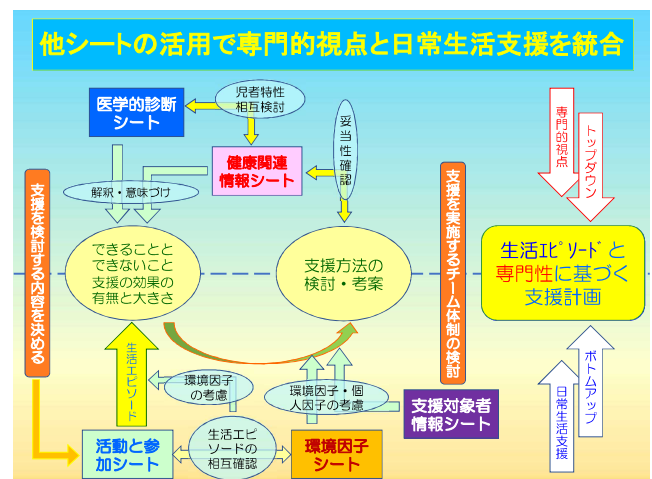
支援会議を重ねると支援の共通項が見える

一例

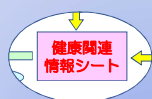
- いろいろな項目(食事、排泄、意思表示、場面のコントロール、対人関係)について検討をしたが、結果の検討の「うまくいく条件」「うまくいかない条件」に共通項が見出された。



- 次の支援先への引継ぎに役立つ(ライフステージが変わっても、一貫した支援につながる)



専門的視点と現場の取り組みを統合した支援



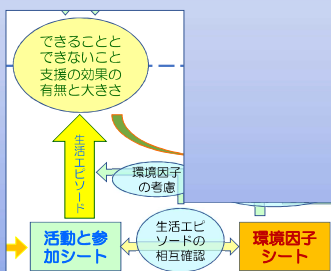
専門家の評価を支援連携につなぐ

ボトムアップ支援連携につながる情報提供

健康関連情報(記入欄B 01-02)					
B. 専門的評価が必要と思われるエピソード/専門職による評価結果と所見					
エピソード01		記入者ID			
エピソード内容		友達と一緒に遊ぶことが少なく、話を聞いてもらってもうろつくし、友達が大勢いる場所から離れようとする。母といくと安心みたいけれど、一緒に遊ぶ趣味やゲーム、人遊びがほとんど。生活の些細なことでも時々気持ちを直すことがあって、なかなか立ち直れない、例えば、いつものスーパーで買えなかった物があったとき、別のスーパーに行くことに納得してくれない。気持ちを直すことは理由が分からない場合も多くて、困っている。			
専門的評価01	評価者ID		職種		評価法
	評価目的	発達課題の有無と発達特性に基づく支援の必要性および支援の手がかりの把握			評価日
					2021/4/25
評価結果と所見		発達特性を考慮した支援が必要で、本誌の子どもの脳のしきやざわついた感じが特に苦手と思われる。静かな場面で大人が声の返りに合わせて遊ぶことも、やりとりで遊ぶ場面が増えてくる。一対一で静かな遊びで遊ぶこともあれば、並行遊びに遊ぶこともあります。できるだけ簡単な遊びで大人が関わりを持ってあげましょう。生活の中での変化や刺激が苦手という発達特性があるので、多くの場面で不安を感じているようです。言葉が聞き取れない、できるだけ遊んであげることがよいです。スケジュールの立案については、その可能性を事前に伝えたり、理由を説明してあげると本人の安心につながります。			
エピソード02		記入者ID			
エピソード内容					
専門的評価02	評価者ID		職種		評価法
	評価目的				評価日
評価結果と所見					

専門的視点と現場の取り組みを統合した支援

支援会議資料作成のアシスト①



支援会議資料作成のアシスト①

項目タイトル	選択理由	補足情報	具体的手がかり
d1101 目的を持って見る	注目できる時間を持てない 見るにはどうしたらいいか考えていない	①視覚優位なためリーダーに気づくまでに時間がかかりやすい。 ②全体の指示のみでなく個別に注目するところを指さしたり、絵カードで伝える。動いているときは人を見ようとして身体を止める。 ③目的に気づくことができれば見るようになるが、体を止めることがなかなか注目できない。	d1201) 目の上(目の前)に絵土があれば触れて遊ぶことができる。 d1301) 足型でピツと止まることができる。 d2301) 次の活動が分かることで自分で戻ることができる。 d3101) メリハリのある声掛けやハッとするような声をかけよう。 d31501) ほめられることで人を見ようになった。 d3321) 体を止めることと注目し身振り、手ぶりは真似する。 d13001) 見たことのある絵本を持ってきて、色を指さす、アルファベットを見て「ア」と言う。
課題	支援の方向性	支援方法	いつ・誰が
周りに気が散りやすい。	気付いて注目をさせる	①動いてしまえば足型を置いて、待つ場所を分りやすくする。(遊ぶとき等) ②活動内容を事前に実物(粘土やクレヨン等)を使って見せ、見通しを持てるようにする。 ③同じ絵本を繰り返し見る機会を増やし、注目する時間を延ばす。 ④全体で説明して入りにくいときは、併で話して伝えるようにする。 ⑤具体的に行動をほめる。	

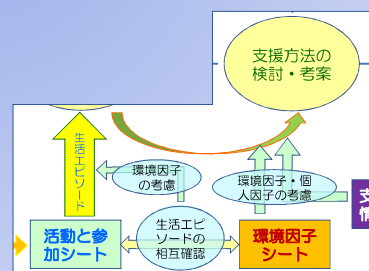
シート作成時の修正助言もあり

②と③の記載内容を特性の観点と本人視点から解説・説明し、支援に有用な具体的手がかりの把握につなぐ

手がかりの把握と特性の観点からの説明
・視覚優位
・事前の見通し
・注目欲求
・文字に対する関心
加えて、本人視点からのエピソード説明

専門的視点と現場の取り組みを統合した支援

支援会議資料作成のアシスト②



支援会議資料作成のアシスト②

項目タイトル	選択理由	補足情報	具体的手がかり
d1101 目的を持って見る	注目できる時間を持てない 見るにはどうしたらいいか考えていない	①視覚優位なためリーダーに気づくまでに時間がかかりやすい。 ②全体の指示のみでなく個別に注目するところを指さしたり、絵カードで伝える。動いているときは人を見ようとして身体を止める。 ③目的に気づくことができれば見るようになるが、体を止めることがなかなか注目できない。	d1201) 目の上(目の前)に絵土があれば触れて遊ぶことができる。 d1301) 足型でピツと止まることができる。 d2301) 次の活動が分かることで自分で戻ることができる。 d3101) メリハリのある声掛けやハッとするような声をかけよう。 d31501) ほめられることで人を見ようになった。 d3321) 体を止めることと注目し身振り、手ぶりは真似する。 d13001) 見たことのある絵本を持ってきて、色を指さす、アルファベットを見て「ア」と言う。
課題	支援の方向性	支援方法	いつ・誰が
周りに気が散りやすい。	気付いて注目をさせる	①動いてしまえば足型を置いて、待つ場所を分りやすくする。(遊ぶとき等) ②活動内容を事前に実物(粘土やクレヨン等)を使って見せ、見通しを持てるようにする。 ③同じ絵本を繰り返し見る機会を増やし、注目する時間を延ばす。 ④全体で説明して入りにくいときは、併で話して伝えるようにする。 ⑤具体的に行動をほめる。	

手がかりの把握と特性の観点からの説明
・視覚優位
・事前の見通し
・注目欲求
・文字に対する関心
加えて、本人視点からのエピソード説明

特性の観点から支援方法(策)の是非性を確認するとともに支援方法(策)の検討をアシストする。
加えて、本人視点から支援方法を解説・説明

旧考性



- (イントロダクションでお伝えしたこと)

マニュアル事例の支援を考えてみる(1)

支援課題

d250	場面に応じた行動のコントロール	困難あり	支援あり	大きい	○	①好きな車があると、危険を顧みず走って行く ②建物の外では、必ず職員がつきそう ③職員がそばにいる時には、急な飛び出しは見られない
d571	危険を回避し安全を保つための配慮や注意	困難あり	支援あり	大きい	○	①車に関心があり、飛び出したり、叩き壊す等の行動が見られる ②意外を歩行するときには必ず付き添う ③車に関するトラブルはない

車が好きな写真

d3151-2	記号やシンボルの理解、絵や写真の理解	困難あり	支援あり	大きい	○	①絵や写真の理解はできる ②支援時に絵カードを使用 ③絵カードを確認し、行動に移ることができる
d166	楽しむことの日常生活での活用	困難あり	支援あり	小さい	○	①好きな車雑誌を見ることは好きであるが、文字を読むことはできない ②本人の好きな車の雑誌を定期的に提供する ③車の雑誌を見ることで外出の意欲が多くなる

着想: 自分で好きな車の写真が撮れたら楽しめるのではないかな・・・?

かり手が

d880	一人でもたは誰かと遊ぶこと	困難あり	支援あり	大きい	○	①タジカセを使用し、音楽を聴くことを好む ②音楽を聴ける環境を整える ③余暇時間を一人で過ごすことができる
------	---------------	------	------	-----	---	---

簡単なカメラなら使えないかな?

マニュアル事例の支援を考えてみる(1続)

d120	目的をもって触る・嗅ぐ・味わう	困難あり	支援あり	大きい	○	①異物のある家電を触り、破壊する。 ②こだわりの強い扇風機は除去し、本人の目につかないようにする。 ③必要な家電は、ケースに入れることで、破壊行為はない
------	-----------------	------	------	-----	---	--

懸念: でもカメラに興味を持ったら壊してしまうかもしれない。

新たな情報把握の必要性: 壊す家電と壊さない家電の違いは?

発想転換: 職員がカメラを操作すればOKだから、その要求を出してもらって支援はどうか?

かり手が

d220a	複数の作業や活動を一人ですること	困難あり	支援あり	大きい	○	①一度にたくさんの情報を提供しようとする ②ワークシステムを導入 ③複数の作業もスケジュール通りに活動することができる
d115	目的をもって聞く	困難あり	支援あり	大きい	○	①言葉だけでなく理解できることはあるが、複雑な言葉になると理解できず不安定になる ②絵カードを提示する ③絵カードを提示することで指示されていることがわかる

【僕の好きな車フォトアルバムを作ろう】(余暇支援も兼ねて) ①屋外で好きな車の写真を撮る(撮影は職員)・②印刷して写真鑑賞→①②の流れを繰り返し経験 → ③職員への撮影依頼行動(絵カード)の学習と定着 → ④車への突進行動が依頼行動に転換。

マニュアル事例の支援を考えてみる(2)

支援課題

d120	目的をもって触る・嗅ぐ・味わう	困難あり	支援あり	大きい	○	①異物のある家電を触り、破壊する。 ②こだわりの強い扇風機は除去し、本人の目につかないようにする。 ③必要な家電は、ケースに入れることで、破壊行為はない
------	-----------------	------	------	-----	---	--

支援課題の背景

d155	日常生活に必要な行為やスキルの習得	困難あり	支援あり	小さい	○	①物の扱いの加減ができない ②補助具の活用 ③こだわりの強く、一度獲得した方法を安易に変更することが困難
e2250	気温	あり	あり			①不快な気温と不快時の状況: 暑がりのため扇風機を常に活用していたが、その部屋環境行為に至ってしまう ②快適な気温と快適時の状況: エアコンで一定温度を保っている ③その他:

着想:

かり手が

データ整理表から手がかりを探しましょう

情報を減らせずつづつ探し、減らさずつづつ情報を減らす

グループワーク①

グループワーク① 内容

- ①自己紹介
(所属、役職、経験年数、研修参加の理由 等)
- ②対象事例の概要
(年代、性別、障害支援区分、障害名、課題となっている行動と現状の支援 等)

記録から支援を考える

井上雅彦
鳥取大学医学系研究科
臨床心理学講座

はじめに

問題行動とは何か、改めて考えてみましょう

自閉スペクトラム症(ASD)と行動上の問題

- McTiernanら(2011)はBPI-01を用い、ASD児174人の行動上の問題の有病率とリスク要因の調査から、なんらかの行動上の問題のある児は93.7%という結果であった。
- 特に自傷行動についてはASDとIDを持つ人の罹患率は、IDだけの人よりも高い(Weiss,2002)。
- Baghdadliら(2003)は、222名のASD児の50%が自傷行動を経験し、14.6%が重度の自傷行動を持っていたことを示した。
- Rattazら(2015)は、ASDのある青年期の人152名において35.8%が自傷行動を示し、19.2%が重度の自傷行動を示すことが示された。
- ASDのある人の重度の自傷行動は成人期を通じて持続するリスク(Rattazら2015)も指摘されており、治療の困難性が問題となっている。

行動上の問題の出現率

- 発達障害や知的障害のある人の場合には、ない人と比べ2倍から3倍
- 英国や米国の研究では、知的障害のある人の10～15%がなんらかの行動上の問題を持つことが示されている(Holden & Gitlesen, 2006)
- 多くの場合、幼児期から始まり、適切な援助がなされない場合には、大人になっても続くことが多い。
- 適切な援助がなされないと悪化したり、長期にわたって深刻な状況をもたらすこともある。

「問題行動」とチャレンジング行動

- 「問題行動」(problem behavior)
- 「異常行動」(abnormal behavior; aberrant behavior)
- 「不適切行動」(inappropriate behavior)
- 「チャレンジング行動」(challenging behavior)という言葉が1980年代後半から、使用されるようになってきている。

「本人または他者の身体的安全が深刻な危険にさらされる可能性が高いような強度、頻度、持続時間の文化的に異常な行動、または通常のコミュニティ施設の利用を深刻に制限する、または利用を拒否される結果となるような行動」。(Emerson, 1995 p.44) 著者訳

「チャレンジング行動」という用語を使用する理由として、こうした行動がその「**個人が持つ行動上の特徴**」であるという暗黙の仮定から解放し、その行動の**社会的な重要性を特定し、「社会的な問題である」ことを焦点づけるため**である Emerson and Einfeld (2011)

医学モデルと社会モデル

医学モデル

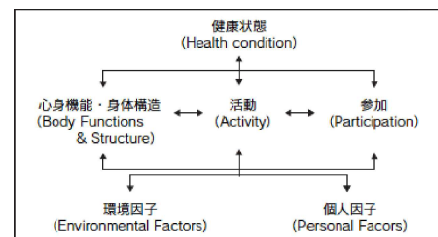
- 障害という現象を個人の問題としてとらえ、病気・外傷やその他の健康状態から直接的に生じるものであり、専門職による個別の治療とかたちでの医療を必要とするものとみる。障害への対処は、治療あるいは個人のよりよい適応と行動変容を目標とされる。主な課題は医療であり、政治的なレベルでは、保健ケア政策の修正や改革が主要な対応となる。

社会モデル

- 障害を主として社会によって作られた問題とみなし、基本的に障害のある人の社会への完全な統合の問題としてみる。障害は個人に帰属するものではなく、諸状態の集合体であり、その多くが社会環境によって作り出されたものであるとされる。したがって、この問題に取り組むには社会的行動が求められ、障害のある人の社会生活の全分野への完全参加に必要な環境の変更を社会全体の共同責任とする。したがって、問題なのは社会変化を求める態度上または思想上の課題であり、政治的なレベルにおいては人権問題とされる。このモデルでは、障害は政治的問題となる。

- ICFはこれらの2つの対立するモデルの統合に基づいている。生活機能のさまざまな観点の統合をはかる上で、「**生物・心理・社会的**」アプローチを用いる
- 厚生労働省障害保健福祉部編「国際生活機能分類国際障害分類改訂版」2002
- <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>

「生活機能・障害・健康の国際分類」(International Classification of Functioning, Disability and Health:ICF)



- World Health Organization. (2001). *International classification of functioning, disability and health: ICF*. World Health Organization.
- 機能・形態障害 (Impairment) → 心身機能・構造 (Body Functions & Structure)
- 能力障害 (Disability) → 活動 (Activity)
- 社会的不利 (Handicap) → 参加 (Participation)

行動治療のエビデンス

- 米国国立保健機構(National Institutes of Health Consensus Development Conference Statement,1989)は「重篤な破壊・自傷・攻撃行動に対しては行動的介入、薬物療法、環境の改善、教育などを複合させることが重要」とした上で、「望ましい行動を促進し、行動問題を低減するための機能分析が重要なステップである」
- 英国政府機関ガイドラインNational Institute for Health and Care Excellence(NICE,2015)においても「チャレンジング行動のための心理社会的介入は、行動の機能的アセスメントを用い行動原理に基づいて行われるべきである」ことを示している。
- 行動障害に対する心理社会的アプローチに関して、多くのレビュー研究から行動分析学をベースにした機能的アプローチのエビデンスが示されてきている(Horner et al.2002)。

「問題行動」はだれにとってどのように「問題」なのか？

- ☐ こめかみを叩く
- ☐ 人の手をつねる
- ☐ 壁紙をはがす
- ☐ 勝手に人の家に入る
- ☐ 大声をあげ続ける
- ☐ 玄関から動かない
- ☐ 人前で服を脱ぐ
- ☐ 同じ質問を何度もする
- ☐ トイレに行くと水道で頭を濡らす



「問題性」の種類

☒ 他人や他人の財産を傷つけるもの

- ☐ 他者に暴力をふるう
- ☐ 暴言を吐く
- ☐ 物を壊す

☒ 自らの生命や健康を脅かすもの

- ☐ 道路への飛び出し
- ☐ 異食

☒ 社会参加や学習の機会を制限されるもの

- ☐ 予定の変更がきかない
- ☐ 大声を出す
- ☐ 授業中に立ち歩く

「問題性」への理解

「問題性」としては自他を傷つける行動に加えて、本人が社会参加や学ぶ機会を失ってしまう行動も含まれる

「問題性」には様々な種類があり、人によって判断が異なる場合がある

「問題性」の判断相違は、一貫した介入を阻害する要因となる

「問題となる行動」をターゲットとする際には、一人だけの判断ではなく、周囲の人たちの意見も参考に個々のケースで個別的に判断していくことが大切である

アセスメント

問題行動に関連するアセスメントとは？

また複数の問題行動がある場合、全体的にとらえておく必要もあります

行動上の問題に関するアセスメント

- プロフィール情報
 - 診断名(障害特性)、手帳の等級、知能(発達)検査、生活状況
 - コミュニケーションスキル
 - 余暇スキル
 - 行動の歴史
- 重篤度の評価
 - 強度行動障害判定評価表・行動関連項目
 - **BPI-S**
 - ABC-J

組織全体でのアセスメント

- **BPI-S 問題行動評価尺度短縮版**
- 国際的に利用されている尺度 井上研究室HPよりダウンロード可能
- 組織全体でアセスメントを行い、重篤化に対する早期予防・治療につなげる
- 実践の効果をみる指標としても活用できる
- 特別支援学校での2020年の調査では全校児童生徒の重度のチャレンジング行動のある子どもは(約15%)

BPI-S
The Behavior Problems Inventory for Individuals with Intellectual Disability

The Target Individual: _____
The Respondent: _____

Age: _____ months, Gender: ☐ male ☐ female
Ethnicity/Race: _____

Intellectual Disability: ☐ mild (IQ = 55-70) ☐ moderate (IQ = 41-55) ☐ severe (IQ < 40)

Instructions
This scale is used to assess behavior problems in individuals with intellectual disability. It is a 16-item scale that assesses behavior problems in three domains: self-harm, aggression, and challenging behavior. The scale is used to assess behavior problems in the past 12 months. The scale is used to assess behavior problems in the past 12 months. The scale is used to assess behavior problems in the past 12 months.

Item	Frequency	Severity		
		Mild	Medium	Severe
1. 自分を噛む	0	1	2	3
2. 頭を叩く	0	1	2	3
3. 手、その他の身体の一部で身体(頭以外の部位)を叩く	0	1	2	3

参考

BPI-Sの評価

- 1. 自傷行動(SIB) 重度と評価されて少なくとも週に1回発生する場合、または中程度と評価されて少なくとも毎日発生する場合。その他のSIBの発生は、困難とは見なされない
- 2. 攻撃的・破壊的行動 重度と評価されて少なくとも週に1回発生するか、中程度と評価されて少なくとも毎日発生する場合。
- 3. 常同行動 1時間ごとで発生する場合。
- 4. Challenging Behavior(チャレンジング行動) 全体的には上記のカテゴリーに該当する少なくとも1つの行動の存在によって定義される。
- Bowringら (2017).
- 全体の得点を評価することで、標的とする行動を考えるヒントになる。
- 難易度 他害>自傷>常同

参考

BPI-Sを手掛かりにする

- 2か月程度の観察が必要
- 自傷行動、攻撃的破壊的行動、常同行動に複数にまたがることが多い。**まず全体を把握することが重要**
- **ターゲット行動としては週1回以上ある行動を選択したほうが良い**

自傷行為は、**重度**と評価されて少なくとも**週に1回**発生する場合または**中程度**と評価されて少なくとも**毎日**発生する場合
その他のSIBの発生は、**困難**とは見なされない Bowringら (2017)

参考

	一度もない／問題ない	頻度				重症度		
		1か月に一度	1週間に一度	1日に一度	1時間に一度	軽度	中度	重度
1 自分を噛む	0	1	2	3	4	1	2	3
2 頭を叩く	0	1	2	3	4	1	2	3
3 手、その他の身体の一部で身体(頭以外の部位)を叩く	0	1	2	3	4	1	2	3
4 自分を引っかく	0	1	2	3	4	1	2	3
5 異食: 食べ物でないものを食べたり飲み込んだりする	0	1	2	3	4	1	2	3
6 身体の開口部(口)にもものを入れる(例: 鼻、耳、おしりの穴の中)	0	1	2	3	4	1	2	3
7 髪の毛を抜く(部分的に抜けるほど)	0	1	2	3	4	1	2	3
8 音が出るような歯ざり	0	1	2	3	4	1	2	3

攻撃的／破壊的行動は、**重度**と評価されて少なくとも**週に1回**発生する場合または**中程度**と評価されて少なくとも**毎日**発生する場合
その他のSIBの発生は、**困難**とは見なされない Bowringら (2017)

参考

	一度もない／問題ない	頻度				重症度		
		1か月に一度	1週間に一度	1日に一度	1時間に一度	軽度	中度	重度
9 他人の人を叩く	0	1	2	3	4	1	2	3
10 他人の人を蹴る	0	1	2	3	4	1	2	3
11 他人の人を押す	0	1	2	3	4	1	2	3
12 他人の人を噛む	0	1	2	3	4	1	2	3
13 他人の人をつかんだり引っ張る	0	1	2	3	4	1	2	3
14 他人の人を引っかく	0	1	2	3	4	1	2	3
15 他人の人をつねる	0	1	2	3	4	1	2	3
16 他人の人を言葉でのしる	0	1	2	3	4	1	2	3
17 ものを壊す(例: 衣服を引き裂く、椅子を投げる、テーブルを壊す)	0	1	2	3	4	1	2	3
18 他人の人をいじめの一環で悪意であったり、残虐である(例: 他人の人からおもちゃや食べ物を横取りする)	0	1	2	3	4	1	2	3

常同行動は、最高の定格頻度(1時間ごと)で発生する場合
Challenging Behaviorがあるとは3つのカテゴリーに該当する少なくとも1つの行動の存在によって定義される。 Bowringら (2017)

参考

	一度もない／問題ない	頻度			
		1か月に一度	1週間に一度	1日に一度	1時間に一度
19 ロッキング、前後に身体を揺る	0	1	2	3	4
20 ものや自分のおいむを噛む	0	1	2	3	4
21 顔を振り回す	0	1	2	3	4
22 ものを同じやり方で動かす(ものをねじる、くるくる回す)	0	1	2	3	4
23 反復的に手や指を動かす	0	1	2	3	4
24 怒鳴ったり叫んだりする	0	1	2	3	4
25 うろうろ歩き回る、飛び跳ねる、走り回る	0	1	2	3	4
26 自分をこする	0	1	2	3	4
27 自分の手やものをじっと見る	0	1	2	3	4
28 奇妙な身体姿勢を続ける	0	1	2	3	4
29 手を叩く	0	1	2	3	4
30 顔をしかめる	0	1	2	3	4

難易度 他害>自傷>常同

行動を具体化する

効果的な支援をするためには、その指標として具体的な行動を記録することが必要となります。

行動を具体化するときのポイント

- 抽象的でなく、何をしているか
 - × パニックになる
 - 床に寝そべって奇声をあげる
- 否定形だけでなく、どうしているのか
 - × 指示にしたがわない
 - 床に寝転ぶ(朝の散歩にさそうと)
 - 部屋を出て行く(作業中に)

例 ① 特定の利用者を叩く
② 自室の床への放尿
③ 自分の頭を叩く

行動を具体化する

行動を具体化するメリット

1. 記録しやすい
2. 増減がわかりやすい
3. 対応の効果が明確になる
4. 共通理解しやすい
5. 一貫した対応ができる

記録する行動と指標を決める

- 記録する行動を1つから3つきめてください

- ① 具体的行動()
- ② 具体的行動()
- ③ 具体的行動()

- グループ内でひとりずつ発表し、意見を交わしてみましょう。
- ポイントは事業所の誰もが同じ基準で記録できるかどうかです。

なんのために記録をとるのか
どのように記録をとるのか

「問題」となる行動は、環境との相互作用の中で学習の結果生じたものです。

どのような環境の下で生じやすくなるのかを記録していくことが重要です。

なんのために記録をとるのか

- 節約的に行動記録をとることで
 - 起こる場面が予測可能になる
 - 対応の準備がしやすくなる
 - 起きていない場面に潜む良い条件に気づく
 - 行動の機能が推定できる
 - 指導やアプローチの成果がわかる
- 記録をとることは実践の基本です。
- しかしチームで信頼性のある記録をとる体制をつくることは容易でない。
- 全員で記録ができるまでには時間がかかりますがじっくり進めていきましょう。

どのような行動を記録するか

基本的には、先に決めた3つの具体的な行動の中から記録してみましょう

大声→制止される→**他傷**など行動が連鎖化している場合は最初の行動を優先しましょう

記録をとる時間帯

- 基本的には一日を通して行いましょう
- どうしてもむづかしい場合、記録する時間帯を決めておくと職場内で協力が得やすくなります
 - 例 午前中のみ 13時～15時まで
- 同じ条件で定期的に観察することが大切
 - 場面や活動が一定の方が良い
 - 行事や祝日などイレギュラーなイベントがある
 - **二週間くらいがベスト**

初期段階での記録用紙の例 2週間程度記録する

場所・人・状況などを具体的に（×イライラしたとき） 日（ ） No. 観察者

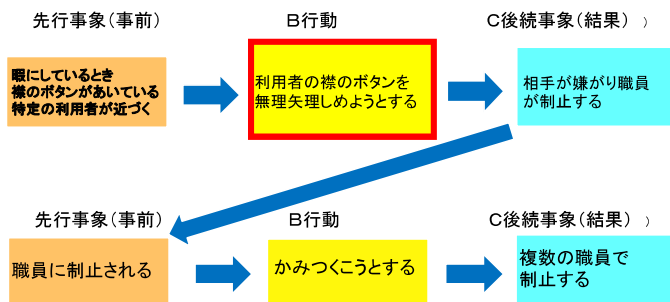
周囲の対応を明記

本人の行動は減ったか増えたか、変わらないか

時間	状況・きっかけ (いつ? 誰という時? 何をしている時? どこにいる時?)	行動 (具体的に)	どう対処したか	行動はどうなったか
10:30	作業室でみんなと組み立て作業をしている	頭をたたきながら奇声をあげる	作業室から出るように促した	自傷をやめた

具体的に書く「～しない」という否定形でなく「～する」で

前兆となる行動がある場合はその行動を記録する



行 動 観 察 シ ー ト

月 日（ ） No. 観察者名

時間	状況・きっかけ (いつ? 誰という時? 何をしている時? どこにいる時?)	行動 (具体的に)	どう対処したか	行動はどうなったか
10:30	作業室でみんなと組み立て作業をしている襟のボタンがいている特定の利用者が近づく	利用者の襟のボタンを無理矢理しめようとする	相手が嫌がり職員が制止	職員にかみつこうとするのを制止した

行動の記録

[illegible]

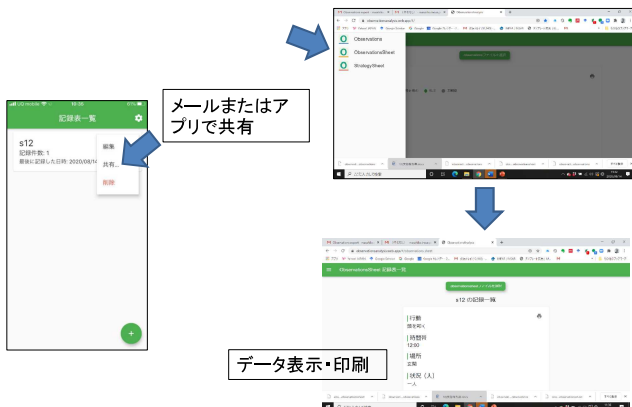
- 行動観察をしていくためには、複数の人の協力が必要
- まずは1～2週間の行動観察の記録をお勧めします
- 観察シートのダウンロードは
- <https://www.masahiko-inoue.com/asessment-sheet>

Observation sheet

- 「行動観察シート」もしくはObservation sheetを2週間程度つけてみる
- いくつかの行動の中から1～3つ以内に絞る
- それらの行動について「生じやすい場面を中心に」あとで説明するスキッター・プロットか、Observations2によって記録を続ける。



解析用HP<https://observationsanalysis.web.app/#/>で
データ読み込み



チームで記録をつける

- ・ **行動記録の導入にはチーム内での理解が必要**
 - － メリットの説明
 - － 記録をとりやすい環境を整える
 - － お礼や励まし
- ・ **最初から同じレベルでの記録を期待しない**
 - － スモールステップで

行動の記録をとる

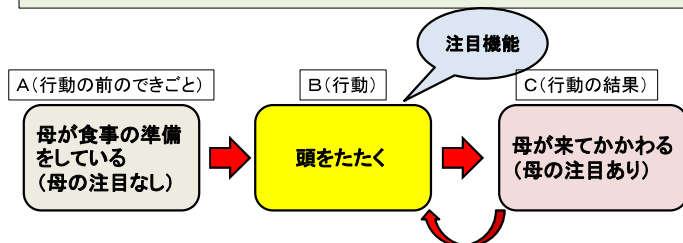
- ABCで行動記録をとることで
 - －なぜその行動をしてしまうのか(機能)が推定できる
 - －起こる場面が予測可能になる
 - －対応の準備がしやすくなる
 - －起きていない場面に潜む良い条件に気づく
 - －指導やアプローチの成果がわかる

その人にとっての行動の意味を知る

「問題行動」はその人にとっては、私たちに訴えかけるコミュニケーションであることがあります。また余暇であることもあります。生じたものを抑制するだけでなく、そもそもなぜ生じているのか、その人にとっての意味を考えてみるのが大事です。

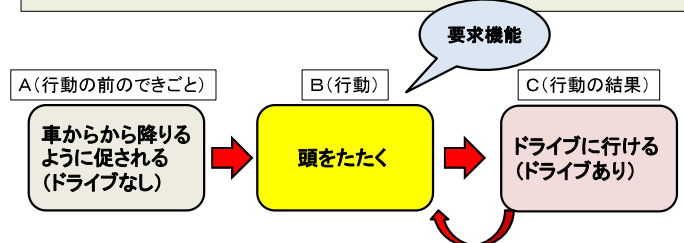
注目要求の機能(コミュニケーション)

ジロウさんは、お母さんが食事の準備を始めると、大きな音がするほど自分の頭を叩く自傷行動をしてしまいます。お母さんは大きな音と奇声でびっくりして駆け寄って、ジロウさんに声をかけます。ジロウさんはお母さんに声をかけられると自傷行動をやめることができますが、お母さんがいなくなるとまた始めてしまいます。



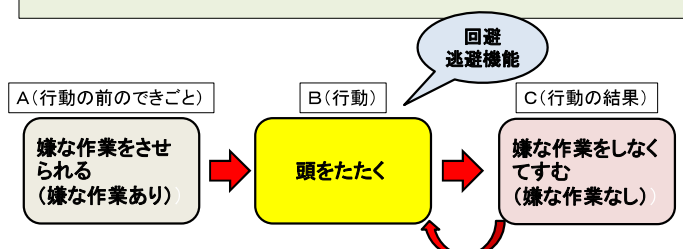
物や活動の要求機能(コミュニケーション)

ゴロウさんは、ドライブが大好きです。ある日職員がドライブに連れて行き、「ゴロウさん、おしまいです、降りて下さい」と言ったとたん、大きな音がするほど自分の頭を叩く自傷行動をしてしまいました。職員さんが再び車を走らせるとゴロウさんの自傷行動は止まりましたが、満足するまでの時間はどんどん延びてしまいます。



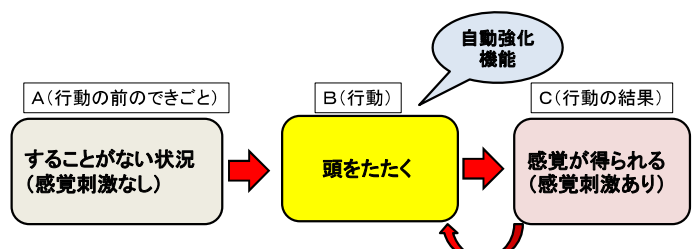
回避・逃避の機能(コミュニケーション)

サブロウさんは、嫌な作業をするように言われると、大きな音がするほど自分の頭を叩く自傷行動をしてしまいます。職員さんはこの行動をされるとさすがにひるんでしまい作業はしなくてよくなるが多いようです。作業をしなくてよくなるとサブロウさんの自傷行動は止まりますが、再びさせようとすると生じてしまいます。



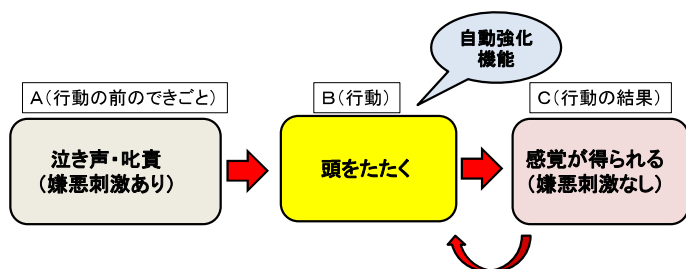
感覚強化の機能(自動強化)

ヨシオさんは、することがないときや長時間一人でいるときに自分の頭を叩く自傷行動を続けてしまいます。職員さんが手を押さえている時は止まりますが、手を押さえていても頭を壁にぶつける行動を繰り返してしまうことがあります。しかしヨシオさんは、自分の好きなビデオを見ているときやおやつを食べているときは一人でいても自傷行動をしてしまうことはありません。



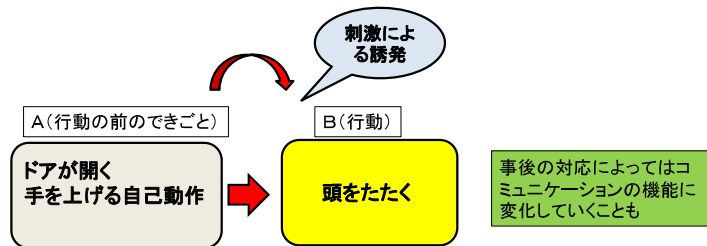
感覚逃避の機能（自動強化）

ムツオさんは、赤ちゃんや子どもの泣き声、誰かを叱責する声が聞こえると大声を上げて自分の頭を叩く自傷行動を続けてしまいます。音が聞こえないときはこのようなことはありません。



反射の機能（レスポナント）

ナナコさんは、目の前のドアが開くのをみるとその瞬間に自分の頭を叩く自傷行動をします。手を動かした瞬間にしてしまうこともあります。



行動の「機能」に着目することで見えてくるもの

“自分の頭を叩く”という行動は、その人にとってどんな機能を持っているのだろうか？

- **コミュニケーションの機能**
 - 物や活動の要求機能 「やって」
 - 注目要求の機能 「こっちみて」
 - 回避・逃避の機能 「いやだ」「やりたくない」
- **自動強化の機能**
 - 感覚強化機能 その活動自体が楽しみや暇つぶしになっている場合
 - 感覚回避・逃避機能 嫌な刺激からの逃れるためにおこなっている場合
- **反射の機能**

CASE

- マサシさんは知的障害を伴う自閉症のある28歳の男性です。マサシさんは入所施設で生活しており、平日の日中は作業などに励んでいます。マサシさんはとても生真面目で、身の回りのことや作業も自発的にきちんと行うことができますが、しばしば金切り声のような奇声をあげ、自分の頭を強く叩く自傷行動を続けてしまいます。
- このような行動が起こると、職員さんはすぐに駆け寄り「どうしたの？大丈夫？」と声をかけるのですが、そのように声をかけられるとマサシさんの行動は収まっていきます。しかし、職員さんが忙しくて対応するのが遅れてしまうと、マサシさんの行動はエスカレートしていくことが多いそうです。
- 職員さんが1対1でついている場面ではほとんどこのような行動が起こることはありません。また、マサシさんは例えば貨物列車のDVDを見ることが大好きなのですが、そのように自分の好きなことをして余暇を過ごしているときにもこのような行動が起こることはほとんどないようです。
- 職員さんたちはなぜマサシさんの奇声や自傷行動が起こるのかわからず、また、自分たちの日々の対応が間違っているのではないかと不安な気持ちになっています。

行動観察シートから機能を知る

行 動 観 察 シ ー ト			
月	日 ()	No	
対象児名	マサシさん	観察者名	
時 間	どんなときに	行 動	どう対処したか
11:05	一人で作業をしているとき	奇声をあげながら自傷	職員がすぐに駆け寄りなだめた
11:10	一人で作業をしているとき	叫びながら頭を壁に打ち付ける	職員がマサシ君と壁の間に割って入って止めた
15:45	一人で片付けをしているとき	奇声をあげながら自傷	職員がなだめて、一緒に片付けた

生じやすい場面が予測できる

7:00	起床
7:00~7:30	着替え・洗顔
7:30~9:00	朝食、歯磨き、排泄、準備
9:00~9:30	通所部登園、身だしなみのチェック
9:30~10:00	朝の集い、作業の説明、作業の準備
10:00~11:30	作業
11:30~13:30	昼食・昼休み
13:30~15:30	作業、余暇、個別活動
15:30~16:00	片付け
16:00~16:30	通所部降園
16:30~22:00	入浴、夕食、歯磨き、余暇
22:00	就寝

行動動機診断スケール
(MAS Motivation Assessment Scale)

[illegible]

気になる行動を具体的に決め、前の状況を書き込んだあと、
結果のところで行動の意味がよくわからない時に使ってみましょう。

行動に有効な支援は何かを知るための記録

機能に合わせた環境調整

代わりにになる行動を教えること

「問題行動」について何が有効かは記録が教えてくれます

CASE スキャッター・プロット

行動観察シートの結果、行動を絞り込む

自傷行動

時間	10:00	10:10	10:20	10:30	10:40	10:50	11:00	11:10	11:20	11:30	11:40	11:50	12:00
10:00													
10:10	✓												
10:20		✓											
10:30													
10:40													
10:50													
11:00													
11:10	✓												
11:20		✓											
11:30			✓										
11:40				✓									
11:50					✓								
12:00													

具体的に生じている／生じていない時があることを明確化

CASE 日常場面で生じやすい場面と行動を抽出

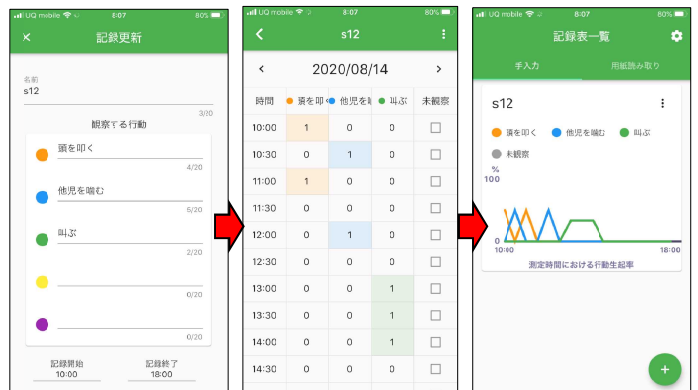


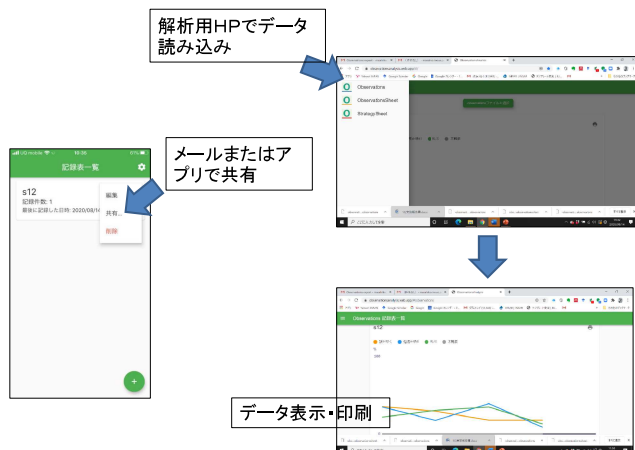
行動の機能を推定する
機能は単一でないこともある
行動観察だけでは制御変数は確定できない
機能分析(実験的随伴操作)により、より正確にアセスメントできる

指導効果を知る

- 定期的な行動記録は支援の中で何が有効であったを知るために重要です。
- できるだけ簡便に、継続して
- 記録を取っていくことが大切です。

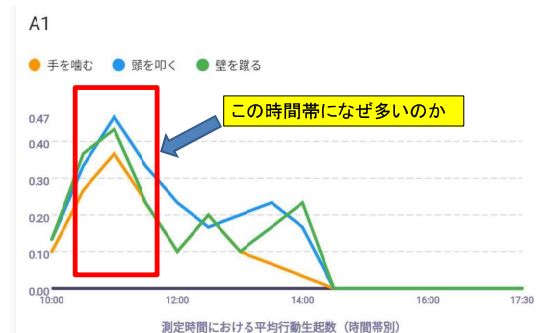
Observation2 (IOS,Andoroid)





グラフ化してミーティングで活用する

- Observationsに打ち込んでみる
- 時間帯別に整理

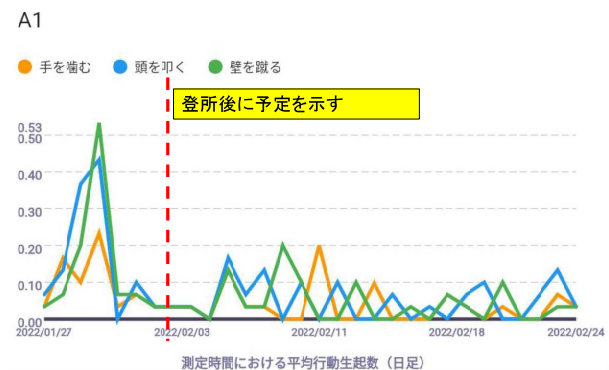


CASE 生活状況

7:00	起床
7:00~7:30	着替え・洗顔
7:30~9:00	朝食、歯磨き、排泄、準備
9:00~9:30	通所部登園、身だしなみのチェック
9:30~10:00	朝の集い、作業の説明、作業の準備
10:00~11:30	作業
11:30~13:30	昼食・昼休み
13:30~15:30	作業、余暇、個別活動
15:30~16:00	片付け
16:00~16:30	通所部帰園
16:30~22:00	入浴、夕食、歯磨き、余暇
22:00	就寝

スクATTERプロットで行動が多い活動場面/見られない場面を特定化

日ごと週ごとに視覚的に共有する

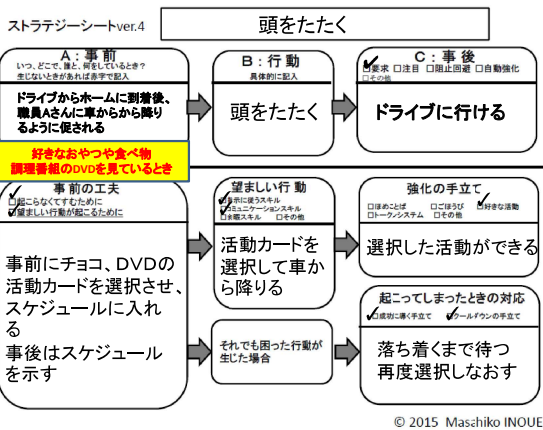


支援の進め方

- 行動の理由を知る(ABCでみる)
- 起こってしまっからの対応ではなく、起こらなくて済む環境の整備(構造化)
- 問題行動に代わる望ましい行動を教える
- 記録をとりながらミーティングに生かし、PDCAを回す
- ノウハウを引き継ぐ(年度)

支援の計画を立てる

機能に合わせた環境調整
代わりになる行動を教えること

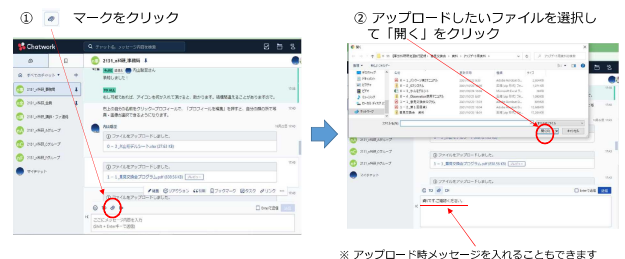


グループワーク②

グループワーク② 内容

- ① ObservationsSheetやObservations2を記録を取る端末にインストールしているか
- ② 普段、どの端末でchatworkを行うか
- ③ Chatworkのグループでチャットや画像アップロードの練習
- ④ ICFシステムのダウンロード、ファイル開いて操作できたか
- ⑤ 1回目を受けての感想、疑問点、不安点等
- ⑥ 実践を進めるための確認（記録の内容、ICFの進め方等）

Chatworkへの資料アップロード方法 (PC上にデータがある場合)



次回までのお願い

- ・同意書の返送
- ・ICFシステムへの記入（提出期限：1月6日まで）
→ 完成後、chatworkのグループに提出をお願いします
- ・事業所での内容の伝達
→ 講義の振り返り動画をHPに掲載するので活用してください
- ・ObservationsSheetによる行動記録（1 Week）
（提出期限：1月10日まで）
→ 記録の開始時にchatworkにてグループ内で報告
→ 1 W記録後、データをchatworkのグループに提出
- ・Observations2による行動記録（2 Week）
→ 記録の開始時にchatworkにてグループ内で報告
→ 次回（1月13日）までに出来たところをchatworkのグループで共有

事務連絡等

確認したいことがあったら・・・

令和4年度厚生労働科学研究費補助金事業

- まず、chatworkのグループにメッセージを！
例
 - 進め方がわからない
 - 行き詰まってしまった
 - ICFの記入について 等々
- 全体で共有した方がよい質問等については、
【全体のグループ】にて共有します。

実践検討・意見交換会

第2回目 令和5年 1月 13日（金）

Program		
12:30～	参加者 入室開始	
13:00～ 13:10	事務連絡	
13:10～ 14:40	【講義・演習】 ICFからQOL支援を考える	【講師】 北海道大学 教授 安達潤 氏
14:40～ 14:50	休憩（10分）	
14:50～ 16:20	【講義】 記録・行動の機能から支援を考える	【講師】 鳥取大学 教授 井上雅彦 氏
16:20～ 16:30	事務連絡（次回までの確認等）	

ICFからQOL支援を考える

令和4年度厚生労働科学研究費補助金事業

実践検討・意見交換会

第2回目 令和5年 1月 13日（金）

安達担当分補足資料

ICFデータの支援への活用の手順（1）

- ICFデータの関係者間共有
 - ：支援会議あるいは事前にICFデータを共有する。
 - ：データ全体から対象者のQOL度をイメージする。
（対象者は幸せに生活できているか？）
 - ：ICFデータが対象者の生活実態を事実レベルで反映しているかどうかをチェック。
- ICFデータ（特に補足情報）のブラッシュアップ
 - ：曖昧な記載となっている補足情報について
関係者でブラッシュアップしていく
（初めての人がその人と生活実態をイメージできるか？）
 - ：対象者のQOL向上を念頭に明らかにしておくべき
情報を確認・補完していく。
 - ：上記のプロセスを進めながら対象者のQOL向上に
関わる項目を検討して行く。
 - ：必要があればチェック部分も修正する。

ICFデータの支援への活用（2）

3. QOL向上に関連する項目の絞り込み
- ：チェック部分の修正があれば分析アプリで再分析する。
 - ：QOL向上に関連する支援対象項目を選定する。
（多くは「修正」「考案」からですが、「維持調整」でも、「支援方向」がQOL向上と逆方向であれば対象となる）
 - ：またQOL向上に資する項目にも留意しておく。
 - ：選定項目を念頭に、支援に活用できそうな項目を拾う。
 - ＞活動と参加では「強み」「維持調整」が中心だが、補足情報に有用な情報がある「修正」項目も拾う。
 - 環境因子では「(充実すべき)好影響因子」および「(除外すべき)悪影響因子」の項目を拾う。
4. QOL向上に関連する項目の支援検討
- ：拾い上げた項目の補足情報に記載されている支援関連情報を活用して、支援対象項目の支援を考案あるいは修正する。
 - ：なお、ICFデータに記載されていない内容（既存の支援方法など）も含めて発想の幅を広げて考える。

本日のワーク（1）

1. 「活用の手順」の1と2を行います。
- ＞時間はこの後の45分間
 - ＞各グループで検討するICFデータに安達がコメントを入れています。
 - ＞このコメントは「安達が支援会議に出たら、きっとこんなことを質問したり発言するだろうなあ」というフラットな立ち位置で書いています。
 - ＞安達のコメントを支援会議メンバーの意見と捉えて、支援会議（ICFデータブラッシュアップ段階）を行って下さい。
 - ＞対象者を知る当該事業所の方は情報提供源です。
 - ＞ファシリ先生は会議リーダー、その他の先生は（まだ対象者を知らない）連携機関の方々です。
 - ＞安達も短時間ですが各Grに入りますので、仲間にに入れて下さい。

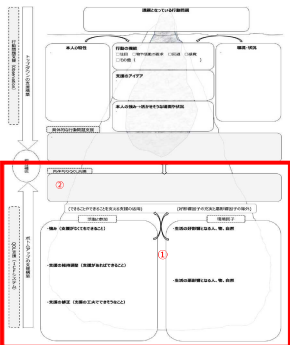
本日のワーク（2）

2. 「活用の手順」の3と4を行います。
- ＞時間は説明の後の20分間くらい（25分間）
 - ＞手順3
 - ：Grワーク事例のQOL向上に関わる項目を絞り込みます。（QOL低下に関連する項目を中心に絞り込みます）（QOL向上に資する項目にも留意しておきます）
 - ：絞り込まれた項目（低下・向上の両方）を念頭に、低下項目はその改善のための支援に役立つ項目、向上項目はさらなる充実のための支援に役立つ項目を拾い上げていきます。
 - ：Grでの討論を通じて氷山モデルシートに書き入れる項目を絞り込み、補足情報の支援内容を中心に簡潔にまとめて氷山モデルシートも記載します。
 - ＞手順4
 - ：支援アイデアをグループで出し合って、実行可能性も考慮して検討し、氷山モデルシートに記載します。

途中の説明（手順の3と4）

- ・配布資料のスライド3～10を確認します。
 - ＞確認は10分以内で終わらせます。

QOL支援について考える



- ・QOLをあげるための支援について、ICF情報把握シートの情報を基に、改訂版氷山モデルシートを活用して考える。

【記入方法】

- ① ICF情報把握シートから支援に必要な項目を抜き出す
- ② 抜き出した項目を基に、具体的なQOL支援を考える

①ICF情報把握シートから項目を抜き出す

1. 情報把握シートを回答分析アプリにかけた結果を確認する。
2. 【活動と参加】「強み」「支援の維持・調整」「支援の修正」のなかから支援に活用できそうな項目を抜き出す。
3. 【環境因子】「好影響」「悪影響」となる、人・物・自然について支援に活用できそうな項目を抜き出す。

□ ICFマニュアル事例

活動と参加 【強み（支援なしで顕著なし）】

項目番号	項目タイトル	支援なし	（）支援あり	（）支援なし	（）支援あり	（）支援なし	（）支援あり
4546	活動すること	顕著なし	（）顕著あり	（）顕著なし	（）顕著あり	（）顕著なし	（）顕著あり

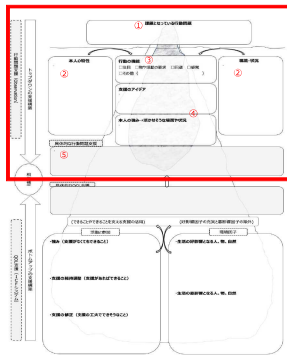
□活動と参加 【支援の維持・調整（支援効果は大きい）】

項目番号	項目タイトル	支援なし	（）支援あり	（）支援なし	（）支援あり	（）支援なし	（）支援あり
4547	活動すること	顕著なし	（）顕著あり	（）顕著なし	（）顕著あり	（）顕著なし	（）顕著あり

□活動と参加 【支援の修正（支援効果小さい（なし））】

項目番号	項目タイトル	支援なし	（）支援あり	（）支援なし	（）支援あり	（）支援なし	（）支援あり
4548	活動すること	顕著なし	（）顕著あり	（）顕著なし	（）顕著あり	（）顕著なし	（）顕著あり

記録・行動の機能から支援を考える



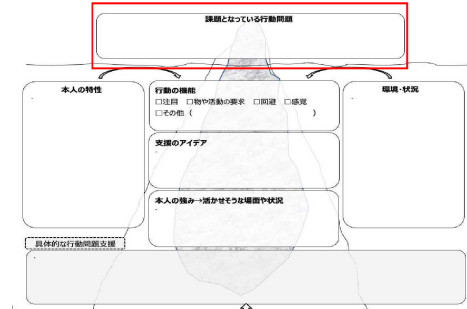
・行動問題支援について、「ObservationsSheet」「Observations2」の記録を基に、改訂版冰山モデルシートを活用して考える。

【記入方法】

- ① 「ObservationsSheet」「Observations2」で記録した課題となっている行動問題を記入する
- ② 行動問題に影響していると考えられる「本人の特性」「環境・状況」を記入する
- ③ 「ObservationsSheet」の記録から行動の機能を選択する
- ④ 「支援のアイデア」「本人の強み」を記入する
- ⑤ 記入した情報を基に具体的な行動問題支援を考える

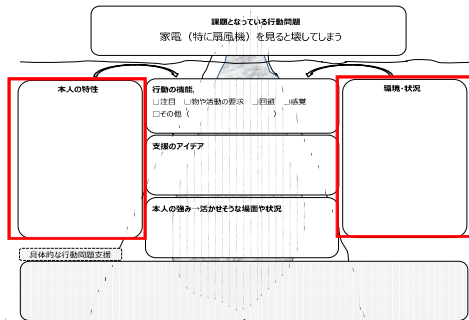
① 課題となっている行動問題を記入する

- 「ObservationsSheet」「Observations2」で記録した課題となっている行動問題を記入する
- ※ 1つの行動に対し、1つの冰山モデルシートを記入する



② 「本人の特性」「環境状況」を記入する

- 行動問題に影響していると考えられる「本人の特性」「環境・状況」を記入
- 「環境・状況」は、行動記録の前後の状況からも把握できた内容も記入
- ※ ICF情報把握シートから得た情報は、必ずしも記入しなくてもよい



③ 行動の機能を選択する

- 「ObservationsSheet」の記録から行動の機能を選択する

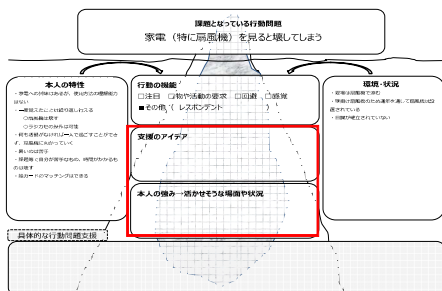
行動の機能
☐ 注目 ☐ 物や活動の要求 ☐ 回避 ☐ 感覚
☐ その他 ()

← 記録から機能を選択

ObservationsSheet 記録表一覧				
番号	記録日時	先行事象	行動	後続事象
1	2022/11/21 02:20	起床時 2022/11/21 02:20 場所: 寝室 状況 (A): 1人 状況 (行動): ゆっくり		対応: 声かけ 推論される機能: 注目
2	2023/01/12 06:07	起床時 2022/09/22 10:00 場所: 作業場 状況 (A): 支援員、利用者 状況 (行動): 作業場についてとき	洗濯機を叩く	対応: 洗濯機を叩く 推論される機能: 物や活動の要求 注: 洗濯機を叩くことはなく、活動へ関与が推論される機能: その他、不明、レンジボンド
3	2023/01/12 06:08	起床時 2022/09/22 12:00 場所: 浴室 状況 (A): 支援員、利用者 状況 (行動): 浴室を待っているとき	壁を叩く	対応: 浴室を提供した 推論される機能: 要求

④ 「支援のアイデア」「本人の強み」を記入する

- 「支援のアイデア」は、環境調整、関わり方等のアイデアを記入する
- 「本人の強み」は、現状把握している情報を記入する
- ※ ICF情報把握シートから得た情報は、必ずしも記入しなくてもよい



話し合いの進め方

- ・ 問題となる行動を起こさなくてすむための事前の工夫についてアイデアを出し合う。共通理解を促進し、実行度を上げることにもつながら。司会を1名決め、以下の点をメンバーに伝達する。

今から5分間、実現可能性にこだわらずアイデアをとにかくたくさん出していきましょう。突飛なアイデアも歓迎です。ただし人のアイデアを批判したり、否定しないようにしましょう。正解を求めるのでないの、審議はしないようにしてください。「前にやっただけダメだった」もなしです。ユニークなアイデアも歓迎です。あくまで〇〇という行動を起こさなくてすむための視点でお願いします。

- ・ 若手でも発言しやすい雰囲気をつくる
- ・ 事例の担当者がおられる場合は書記をお願いします

事前の工夫の視点

- ①事前に予定を視覚的に示す
- ②事前に約束をする
- ③指示やルールを視覚的に示す
- ④気になるものがあれば取り除く
- ⑤本人の興味・関心のあるものを取り入れる
- ⑥課題や仕事の量、難易度を下げる
- ⑦課題や活動そのものをやめる
- ⑧選択肢を提示し、本人に選択させる
- ⑨適切な行動をしやすい援助・支援ツールなど
- ⑩困った行動があっても、影響が最小限になるようにする

機能別の望ましい行動の例 本人の強みを活用する

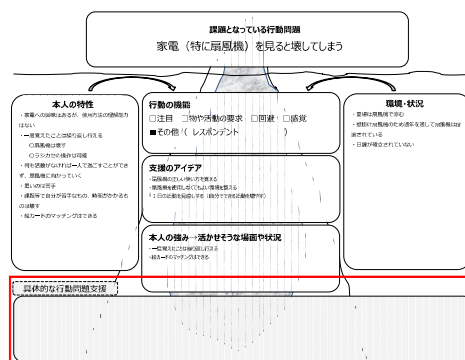
望ましい行動	要求	注目	回避	感覚（自動強化）
コミュニケーション行動	適切な要求方法を教える ・具体物選択 ・写真や絵カード ・単語リストから選択 ・音声で言う	適切な注目のコミュニケーションを教える ・「○○さん」 ・肩をたたく ・手を引く	選択場面を設けて選択させる ・適切な拒否の要求を教える 「やめて」「いや」等 ・適切な支援の要求を教える 「手伝って」「教えて」 「わかりません」等	
余暇活動		注目を得なくてもよくなる余暇を教える		・Bの行動から得られる刺激と似た余暇活動を教える ・Bの行動より好み余暇活動を教える
指示に従う行動	要求できる・できない機会を教える ・トークンシステム ・約束カード		・課題を簡単にする、課題の量を減らす等して取り組むことを教える	
その他		・不適切な行動をしていない時に注目を与える（非随伴性強化）		・Bの行動と同時にできない行動を教える

起こってしまった時の対応も考えておく

- ・この対応は主役ではない
- ・問題となる行動を強化しないこと
- ・スタッフ間で共通理解することで落ち着いて一貫した対応が可能になる
- ・どちらかを選択 or 両方を想定
 - ・成功に導く手立て
 - ・クールダウンの手立て

⑤ 具体的な行動問題支援を考える

- 記入した情報を基に、具体的な支援方法を考える



ワーク③（行動記録に関すること）

■ 個人ワーク

- ・氷山モデルシートの「課題となっている問題行動」「行動の機能」を記入する

■ グループワーク：下記について共有

- ・行動記録に関する進捗状況
- ・記録方法（紙で記録→アプリに転記／アプリにそのまま記録等）と工夫点
- ・記録内容の確認
 - ⇒「ObservationsSheet」で記録した行動・内容
 - ⇒「Observations2」で記録した行動・内容
- ・記録した行動の機能の推定

成功に導く手立て

困った行動で本人の要求をかなえるのではなく、少しでも適切な行動が出るように導く

①手がかりや援助を与えて、望ましい行動に導く

言葉をかける、指さし、実際にやってみせる、手をそえる、身体をガイドして誘導するなど

②成功しやすくして、望ましい行動へ導く

難易度を下げる、課題の量を減らす、一緒に取り組む

③動機づけをあげて、望ましい行動へ導く

ご褒美カードを見せる、選択肢を再提示する、など

クールダウンの手立て

力で止めようとするとうるせいをしてしまう危険がある

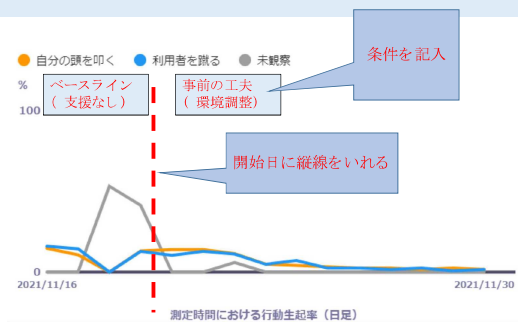
- ★周囲の人を避難させ指導者も距離をとる
- ★刺激の少ない部屋に誘導する
- ★毛布やタオルケットなど落ち着くためのグッズをわたす
- ★時間をかけて見守る
- ★落ち着いたことをほめる

落ち着かせるために本人の好きな活動をさせないこと
→問題となる行動を強化してしまう

記入例（行動問題支援）

課題となっている行動問題 家電（特に扇風機）を見ると壊してしまう		
本人の特性 ・事前への説明はあるが、使用方法が理解できない ・一度見たことは記憶に残る ・自分の部屋に扇風機がある ・扇風機が壊れると不安になる ・壊れた扇風機は自分で直さなければならない ・壊れた扇風機は自分で直さなければならない ・壊れた扇風機は自分で直さなければならない ・壊れた扇風機は自分で直さなければならない	行動の機能 ☐ 注目 ☐ 物や活動の要求 ☐ 回避 ☐ 感覚 その他の（レスポンス） ・不安定なアイデア ・扇風機が壊れると不安になる ・扇風機が壊れると不安になる ・扇風機が壊れると不安になる ・扇風機が壊れると不安になる	環境・状況 ・部屋は扇風機で暖かい ・部屋は扇風機で暖かい ・部屋は扇風機で暖かい ・部屋は扇風機で暖かい
本人の強み・活かせるような場面や状況 ・一度見たことは記憶に残る ・一度見たことは記憶に残る ・一度見たことは記憶に残る ・一度見たことは記憶に残る		
具体的な行動問題支援 ・扇風機が壊れると不安になる ・扇風機が壊れると不安になる ・扇風機が壊れると不安になる ・扇風機が壊れると不安になる		

日々の推移を確認する



事務連絡等

次回までのお願い①

- ・事業所での内容の伝達
→講義の振り返り動画をHPに掲載するので活用してください
- ・ObservationsSheetによる行動記録（2 Week）
→記録の開始時にchatworkのグループ内で共有
→2 W記録後、データをchatworkのグループに共有
- ・Observations2による行動記録（2 Week）
→記録の開始時にchatworkのグループ内で共有（どのような記録をとるか等）
→2 W記録後、データをchatworkのグループに共有

次回までのお願い②

- ・支援会議を実施し、氷山モデルシートで行動の背景の整理
→支援会議の実施日と作成した氷山モデルシートをchatworkのグループで共有
→支援内容が決まったらchatworkのグループに共有
- ・支援の実施とObservations2による行動記録（2 Week）
→支援・記録開始日をchatworkのグループに共有
→2 W記録後、データをchatworkのグループに共有
- ・ICFシートの見直し
→支援の結果、変更点、補足情報の追記がないか等確認し、修正・追記する
→修正後のICFシートをchatworkのグループに共有
- ・修正したICFシート、記録を基に支援の修正・実施・記録
→記録、支援の修正を継続して実施していく

実践検討・意見交換会

第3回目 令和5年3月1日（水）

第3回 令和5年3月1日（水）

Program		
12:30～	入室開始	
13:00～13:05	事務連絡	
13:05～14:00	グループワーク① ・進捗確認 ・パッケージ試行に関しての意見交換	
14:00～15:10	全体共有 ・実践の状況 ・パッケージ試行について 等	
15:10～15:20	休憩（10分）	
15:20～15:30	研究事業について ・研究説明等	
15:30～15:55	グループでの意見交換	
15:55～16:20	全体での意見交換	
16:20～16:30	・事務連絡 ・閉会の言葉	

グループワーク①

グループワーク①の内容

2. パッケージに関すること

- ・事業所での実施状況
- ・有効に感じた点
- ・課題に感じた点
- ・事業所で取り組んでもらいやすくするために必要なこと

グループワーク①の内容

1. 進捗確認

- ・支援会議の実施状況について
（内容：支援会議の実施状況、工夫点、課題点等）
- ・冰山モデル／支援内容について
（内容：冰山モデル作成にあたってICF・Observationsからどのように活用したか、冰山モデル・支援の内容の共有等）
- ・支援の効果、ICFの見直しについて
（内容：支援実施後の記録を共有し支援の効果の確認、ICF情報把握シートで記載した内容に変化があったか等）

1. 進捗確認

Memo

2. パッケージに関すること

Memo

研究事業について

強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の構築のための研究

【1. 社会的課題】

強度行動障害者の状態にある人への支援については、平成25年度から始まった強度行動障害者支援者養成研修において、障害特性に関する知識、チームで一致した支援を行うことの重要性などの知識について周知徹底が進められている。しかし、支援現場における活用は十分ではなく、「知識と技術を持たない職員が対応することによる障害者虐待」「一部の障害福祉サービス事業所、家族、精神科医療機関に負担の偏在」等の問題が生じている。

【2. 望まれる対応】

- 都道府県もしくは広域単位に中核となる障害福祉サービス事業所に強度行動障害者支援に関する指導的チームを配置し、
- (A) 地域内諸機関に対する支援技術・環境整備に関する助言を行う指導的人材の確保
- (B) 地域内支援機関で一貫性のある緊急時対応・地域生活の質を重視した協力的な支援を行うための役割調整
- (C) 地域内に不足している専門的人材の確保、不足しているサービス（例：訪問型支援）の立ち上げなど、行政機関との地域支援体制作りに関する協働を専門的に行うしくみの実装化が必要である。

【3. 既存の調査研究】

- 2- (A) 全日本自閉性支援者協会が2021年に障害者総合福祉推進事業で取り組んだ、人材育成の段階的なステップの整理
- 2- (B) 国立のぞみの園が2020～2021に厚生労働科学研究で取り組んだ、ICTを活用した事業所間・医療機関との迅速・協力的な情報交換
- + ICTによる生活像全体の把握と引継ぎやQOLの評価

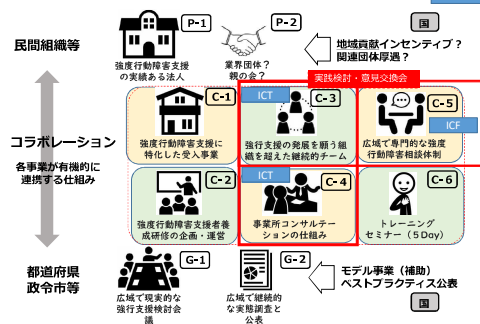
【4. 本研究の内容】

- 全国各地で体制整備を進めるための標準的な枠組みを示すために
- ①1日目（2022年度） 当事者団体・自治体担当者・事業所団体・学会等と、2- (A・B)の構築方法について広く意見交換を行う
- ②2-3日目（2023年度～2024年度） 全国各地の都道府県もしくは広域単位において、2- (A・B)の試行とその分析を行う
- ③3日目（2024年度） 試行を行っていない自治体への説明会や意見交換などを行い、広くコンセンサスを得られるモデル構築に向けたガイドラインを作成する。

地域における取り組み例

地方自治体と民間法人等との協力的関係性をどのように築くか

全日本自閉性支援者協会、2021年
独立のぞみの園 2020～2021年



【調査より】指導的人材に求めるもの

※具体例

■アセスメント力

- 事業所にあった支援方法の分析と提案（組織のアセスメント）
- 事業所での支援を回す上で必要な人へのアプローチの視点
- 利用者の個別的な障害特性や生活状況等を総合的に把握できること

■マネジメント力

- 事業所を超えたネットワークづくり
- 行政・管理者・支援者等に分かりやすく伝えられる説明力
- 育成と理解、技術が乏しい支援者のマネジメントを両輪でできる力

■現場経験

- 年齢、サービス種別等様々な利用者像に対する幅広い現場経験
- 人材マネジメントや事業所の運営経験
- 現場経験を基にした共感力

【R2全自者協報告書より】コンサル養成の視点

- 基礎的な知識とスキルを学んだ経験者が、コンサルテーションの方法についても実地で学ぶのが基本ではないだろうか（組織内でのスーパーバイザーとしての役割はステップとして大切）
- コンサルテーションができる人材養成もその中にあり、実際に事業所のサポートに養成 中の人が同席し学ぶ、コーチングの手法を用いた人材養成を行っている（ロールモデルとして見せることも大切）
- 他のコンサルテーション実施者に付いていき、学ぶ機会が重要であった
- フォーマル、インフォーマルアセスメントをスーパーバイザーについてしっかりと経験すること
- ほとんどは成人期の対応であることから考えると、精神科医療の代表的な疾患と標準的治療についての知識は必要
- コンサルタン経験者同士の情報交換の場の充実

グループワーク②

グループワーク②の内容

- 図にある要素について、自地域の現状の共有・整えていくための課題等
- 指導的人材に求めるもの等
- 時間が余ったら、人材育成、地域支援体制づくりの現状等に関する情報共有

事務連絡

アンケートご協力をお願い

- ・研修に関するアンケート
⇒3/1研修当日に送付されるURLよりアンケートへのご協力をお願いいたします。
アンケート記入された方からご退出ください。
- ・研究に関するアンケート
⇒研究に関するアンケートへのご協力をお願いいたします。
Excelファイル「実践検討意見交換会 アンケート調査」にご記入の上、**3月15日(水)**までに下記メールアドレスまでご提出ください。

アドレス : nozomi.tyousa2@nozomi.go.jp

chatwork等について

- ・chatworkについて
⇒3/31をもって、chatworkのグループを削除いたします。
作成したアカウントについては、各自の判断で削除または活用等お願いいたします。
【参考：アカウントの削除について】
<https://go.chatwork.com/ja/column/usage/usage-042.html>
- ・実践検討意見交換会HPについて
⇒3/31をもって、HPを削除いたします。

iPadの返却について

- ・当法人よりiPadをレンタルしている方へお願い
⇒**3月6～8日の午前中指定**で返送をお願いします。
⇒返送にはレンタル時に同封した段ボールおよび伝票をご活用ください。
⇒ご不明な点は下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
総務企画局研究部 内山聡至・岡田裕樹
TEL : 027-320-1400

－ ICFシステム & 行動観察システム －

行動と環境の包括的アセスメントによる環境調整 支援パッケージ

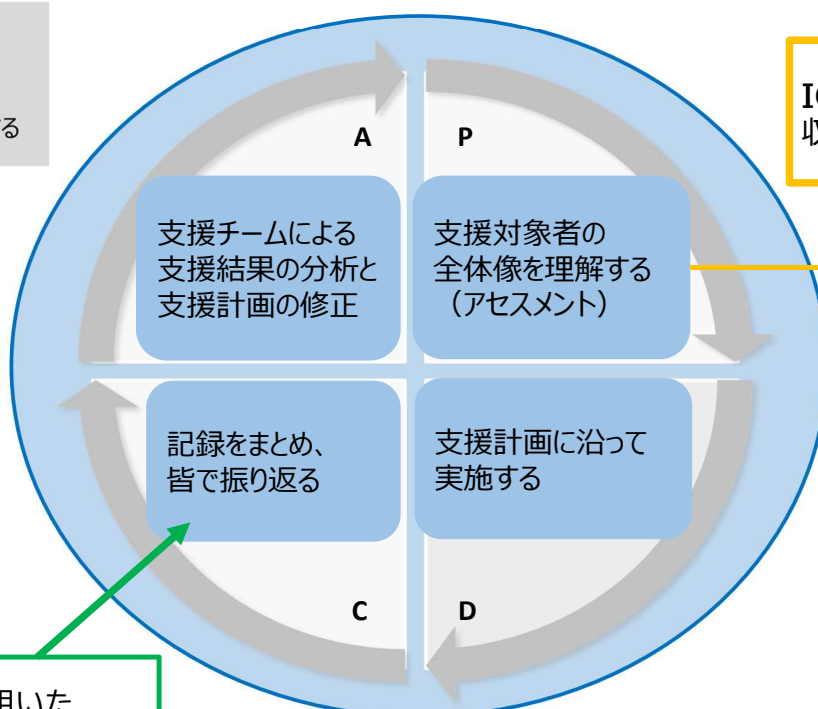
【実施マニュアル】

令和4年度実践検討・意見交換会Ver.

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
令和4（2022）年11月

パッケージ(PDCAサイクル)のイメージ

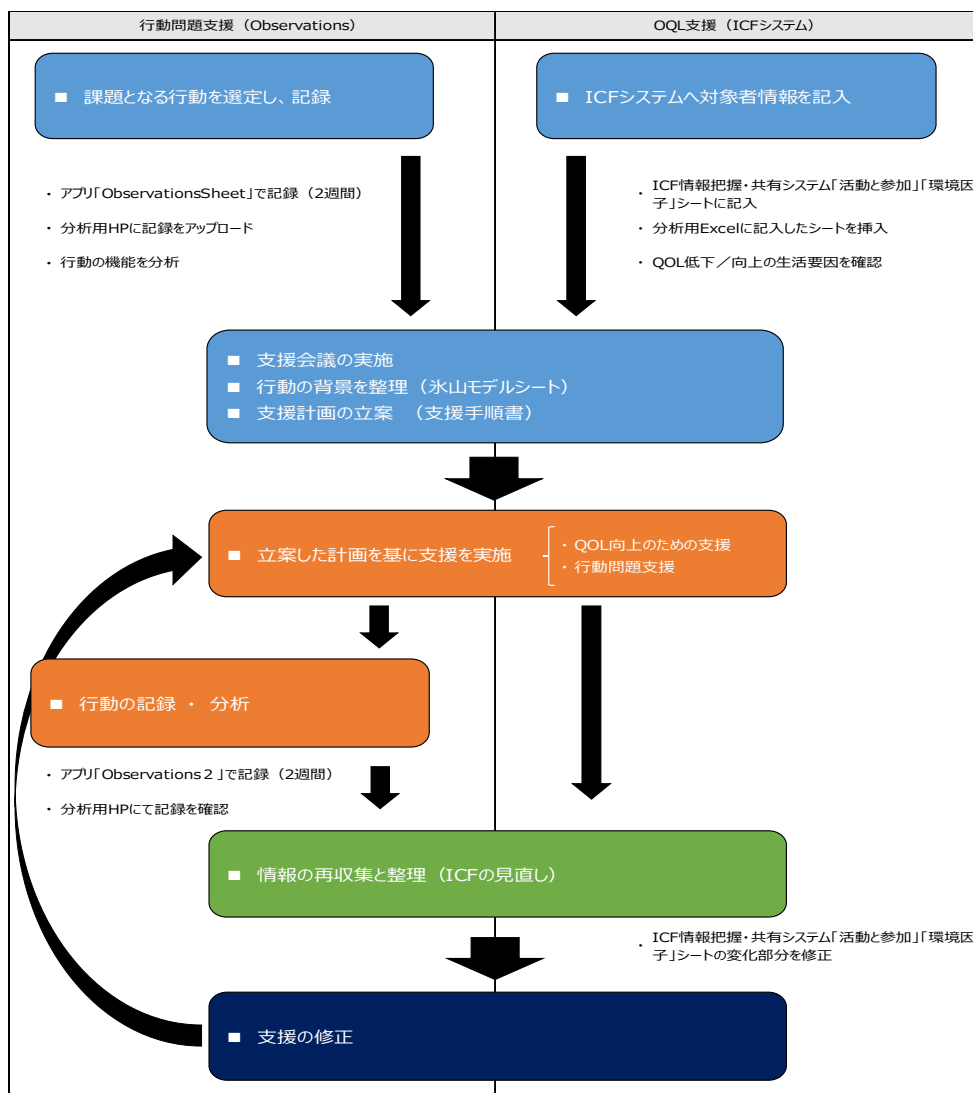
Plan = 計画を立てる
Do = 実施する
Check = 振り返る
Action = ニーズを分析する



ICFを用いた情報の
収集と整理

Observationsを用いた
情報の共有と分析、支援効果の
評価

支援パッケージ の流れ



① ICFシステムへ記入し、全体像を把握する

- 使用するもの：ICF情報把握・共有システム（以下、「ICFシステム」）
- 取り組んでいただきたいこと：ICFシステムを使用し、利用者の全体像を把握し、情報を整理する。

（１）ICFシステムの「情報把握シート」（Excel）を作成する

ICFコアセット 活動と参加 17歳以上 情報把握シート 第1章

「活動と参加」シート 3つの質問 記入のしかた	
① 支援なしの場面では	☐ 困難あり ☐ 困難なし ☐ 詳細不明・非該当
質問1では、支援なしの場面で少しでも困難があれば「困難あり」を選択して下さい。「困難なし」は、項目が示す内容を、支援なしでも自力で達成できる場合に選択して下さい。	
② いま支援があるかどうか	☐ 支援あり ☐ 支援なし ☐ スキップ
質問2は、質問1で「困難あり」を選択した場合に回答可能となり、それ以外では「スキップ」が自動的に選択されます。支援のあり・なしについては、なにか少しでも支援をしていれば「支援あり」を、何もしていなければ「支援なし」を選択して下さい。	
③ 支援の効果は	☐ 大きい ☐ 小さい ☐ スキップ
質問3は、質問2で「支援あり」を選択した場合に回答可能となり、それ以外では「スキップ」が自動的に選択されます。支援の効果については、困難きの軽減が見られており支援の継続あるいは微調整でよい場合には「大きい」を選択して下さい。困難きの軽減が見られなかったり少しだったりするため、今後の支援効果の見極めあるいは支援の修正が必要である場合には「小さい」を選択して下さい。	

第1章 学習と知識の応用

1. 目的をもって（わかって、知ろうとして）五感（視・聴・嗅・味・触）を使うこと。

項目番号	項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	Feedback	備考
d110	目的をもって見る	困難あり	支援なし	スキップ	○	①
d115	目的をもって聞く	困難あり	支援あり	大きい	○	②
d120	目的をもって触る・嗅ぐ・味わう	困難あり	支援あり	大きい	○	③

※情報把握シート「環境因子」

ICFコアセット 環境因子 17歳以上 情報把握シート 第1章

第1章 製品と用具

1.2. 食べ物や飲み物、薬や栄養補助剤

項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する観点	把握状況	備考
e110a	食べ物や飲み物 生活の場下につながる影響をもたらすもの	あり	① 食事・生活下の食品とその状態：納豆が苦手。納豆が出ると給食を捨ててしまふ。食事の摂れな。水分摂取に足りなく。お風呂を飲み過ぎて嘔吐する
e110b	薬や栄養補助剤 健康度低下や生活の場下・生活につながる薬やサプリメントの影響	あり	② 生活の場下につながる影響をもたらすもの ③ その他：納豆は、代替品で対応している。入浴後は嘔吐しやすいため、入浴前の服薬や食事提供は避けている
e110c	健康度低下や生活の場下・生活につながる薬やサプリメントの影響	あり	① 食事・生活下の食品とその状態 ② 生活の場下につながる影響をもたらすもの ③ その他：納豆は、代替品で対応している。入浴後は嘔吐しやすいため、入浴前の服薬や食事提供は避けている

1.3. 個人が日常生活や遊びで使う製品と用具

項目番号	項目タイトルと環境因子の影響を把握する観点	把握状況	備考
e1150	日常生活で使う一般的な製品と用具（改造や特別な設計なし） 使用時の不快感や使いにくさで生活のしづらさをもたらす日用品	あり	① 使用・使いにくい日用品と生活しづらさ：家電製品全般。調味料はあるが、使用方法がわからず調理行為に苦痛。特に風呂場へのこだわりが強い
e1151	使用時の快適さや使いやすさで生活のしづらさをもたらす日用品 使用時の快適さや使いやすさで生活のしづらさをもたらす日用品	あり	② 快適・使いやすい日用品と生活しやすさ：CDラジカセ、クラシック音楽を聴いているときは落ち着いていることが多い。
e1152	日常生活で使う日用品と役立つ製品と用具 使用時の不快感や使いにくさで生活のしづらさをもたらす日用品	あり	③ その他：風呂敷を畳むと寝てしまふため、風呂敷を畳み、エアコンでの生活に変更。エアコンのルーバーは外している
e1153	一般的な遊び用の製品と用具（改造や特別な設計なし） 使うのが中々で使えないために遊びを妨げる遊び用の製品と用具	あり	① 使用・使いにくい日用品と役立つ製品と役立つ製品 ② 使用・使いやすい日用品と役立つ製品と役立つ製品 ③ その他：アタッチメントは壊れる

※情報把握シート「活動と参加」

- 対象となる利用者について、情報分析シートの各項目に沿って利用者の情報を記入する。
- シートのなかで、「活動と参加」、「環境因子」は必ず記入する。

【記入の際の留意事項】

- ・ 推測ではなく、事実をとらえるためのシートという観点で記入する。
- ・ 回答が難しい場合は、無理に回答しなくてよい。
- ・ 「補足情報」は利用者の状況が把握できるように、なるべく具体的に記入する。
- ・ 「わからない」「機会がないので判断できない」項目については、「詳細不明・非該当」を選択してよい。その場合、なるべく「補足情報」の「④その他」にその理由を記載しておく。

(２) ICFシステムの「情報把握シート分析アプリ」(Excel) を使い、内容を整理する



- ・ 「ICF情報把握シート分析アプリ」で、該当する項目（「活動と参加」「環境因子」など）をクリックする。
- ・ 記入した情報把握シート（Excel）を選択する。

※「ICF情報把握シート分析アプリ」によって整理された「活動と参加」の項目の例

【強み（支援なしで困難なし）】

項目番号	項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	チェック	補足情報
d455	移動すること	困難なし	スキップ	スキップ	○	①歩行は自力で行える
d540a	衣服の着替え、履き物の脱ぎ履き	困難なし	スキップ	スキップ	○	①衣類の着替え、履き物の脱ぎは一人で行うことができる

- ・ 記入した内容によって項目ごとにカテゴリー別に整理される。
- ・ 項目ごとの内容を確認し、利用者の全体像の把握や支援に必要な視点などを整理する。

【支援の修正（支援効果小さい（なし））】

項目番号	項目タイトル	支援なしで	いま支援は	支援効果は	チェック	補足情報
d132	質問して知ろうとすること。	困難あり	支援あり	小さい	○	①本人から声出しやジェスチャーで質問をしてくが、表現が曖昧で理解困難 ②コミュニケーションシートを活用し、指さして要求内容を確認する ③コミュニケーションシートだけでは、本人の質問・要求の意図が汲み取れないことが多い
d155	日常生活に必要な行為やスキルの習得	困難あり	支援あり	小さい	○	①物の扱いの加減ができない ②自動具の活用 ③こだわりが強く、一度獲得した方法を変更することが困難
d160	何かに注意を集中すること	困難あり	支援あり	小さい	○	①活動中に何度もトイレに行く ②タイマーを活用したり、活動終了後に本人の好きなものを取り入れることで仕事に集中できるようにする ③活動時間に変化はない
d161	課題や作業が終わるまで注意を逸らさないこと	困難あり	支援あり	小さい	○	①活動中に何度もトイレに行く・課題を壊す ②本人の興味関心のある課題内容に変更する ③初めは活動に集中できるが、途中から課題を壊し始める
d166	読むことの実生活での活用	困難あり	支援あり	小さい	○	①好きな車雑誌を見ることは好きであるが、文字を読むことはできない ②本人の好きな車の雑誌を定期的に提供する ③車の雑誌を見ることで外出の要求が多くなる

② 課題となる行動を選定し、行動を記録する

- 使用するもの：Observations Sheet（アプリ）
- 取り組んでいただきたいこと：課題となる行動を選定し、2 週間の行動を記録する

※課題となる行動は複数選択してもよい



（１）記録表を作成し、名前を入力する

- ・ 右下の+をタップし、記録表を作成する。
 - ・ 対象となる利用者の名前を入力する。
- ※名前は受講番号で記入する。



（２）行動を記録する日を選択する

- ・ 「記録表一覧」画面で、対象となる利用者を選択する。
- ・ 行動を記録する日を選択し、右下の+ボタンをタップする。



（３）行動を記録する

- ・ 項目に沿って記録する。
 - ・ 項目は、「行動」「時間帯」「場所」「状況（人）」「状況（行動）」「対応」「推定される機能」
- ※一度記入したものは右側にあるタグマークをタップすることで選択することが可能。

※記入例

（４）2 週間分の行動を記録する

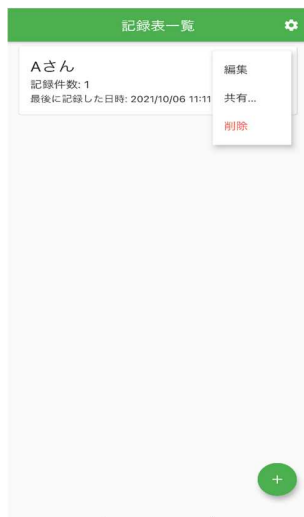
- ・ 対象期間とする2 週間分の行動を記録する。



③ 記録を確認する

- 使用するもの：Observationsの分析用HP
- (URL : <https://observationsanalysis.web.app/>)

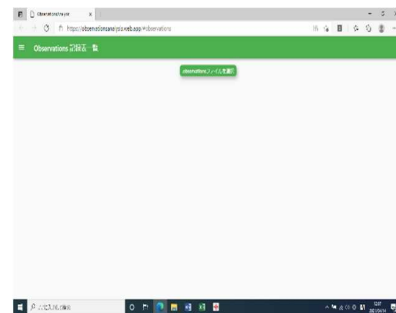
(1) アプリの記録をPCに送る (またはアプリがある機器のフォルダに保存する)



- ObservationsSheetアプリで取った記録を、各記録の画面右上のメニューから「共有」を選択する。
- データをメールでPCへ送信、またはアプリで記録している機器のフォルダに保存する。

(2) 分析用HPにデータをアップロードする

- Observations分析用HPを開き、左上のメニューボタンから該当するアプリを選択し、記録のデータをアップロードする。



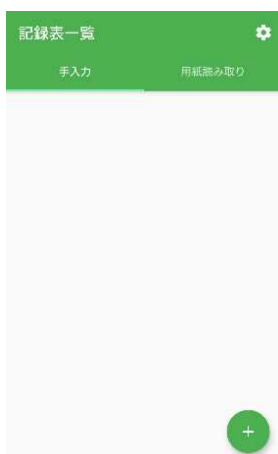
(3) アップロードしたデータを確認する

- 分析用HPでアップロードしたデータはcsv形式でダウンロードが可能 (右上の↓をクリック)。

Aさんの記録一覧				
番号	記録日時	先行事象	行動	後続事象
1	2021/05/23 10:57	時間帯: 2021/05/23 10:57 場所: 居室～廊下 状況 (人): 職員 状況 (行動): 起床～朝食時は言葉遊びをしている。朝食後「やさしいジュースください」カードを忘れているため促し、本人すぐに取りに帰る。帰室後、居室から走り出て職員に手を上げて向かう。	大不機 (面みかたり、号泣、ハンカチ破り)	対応: 同僚状態になっており、メモ提示するもなかなか入らず。職員に面みかたりすること繰り返す。 ①おへや/やさしいジュース」のメモ提示で少し切り替わり、手洗いセット要求。その後走り出て職員に向かうことが11:00頃まで続き、職員メモ提示を行う。本人がジュールを組み立てたり、「しんこきゅう！」と言いつつハースハーと息をしたりする。ソファを倒して横になり、徐々にトーンダウンする) 推論される機能:

④ 課題となる行動のベースラインを記録する

- 使用するもの：Observations 2 (アプリ)
- 取り組んでいただきたいこと：行動の頻度や時間帯などを継続して記録する。
- ※記録を取る行動は、複数でも可。



(1) 名前を入力する

- 右下の+をタップし、記録表を作成する。
 - 対象となる利用者の名前を入力する。
- ※名前は受講番号で記入する。

※記入例

(2) 記録する行動を入力する

- 作業②で選択した行動を入力する。
- 入力は、「観察する行動」 ※複数入力可
- 記録する時間について「記録開始 (時間)」「記録終了 (時間)」「記録間隔」を設定する。

手入力記録作成

名前
Aさん

観察する行動 3/20

- 頬を叩く 4/20
- 服をやぶる 5/20
- 水へのこだわり 7/20
- 大声 2/20
- 0/20

記録開始 10:00 記録終了 18:00

記録間隔 30分

☐ 24時間記録

作成

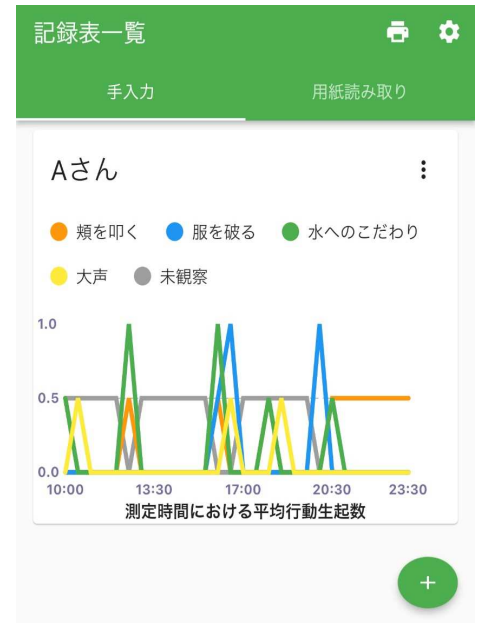
時間	頬を叩く	服を破る	水へのこだわり	大声	未観察
10:00	0	0	0	0	☑
10:30	2	0	0	0	☐
11:00	5	0	1	3	☐
11:30	0	0	0	1	☐
12:00	2	0	1	3	☐
12:30	1	0	0	1	☐
13:00	0	0	0	0	☐
13:30	0	0	0	0	☐
14:00	1	0	0	2	☐

(3) 行動の頻度を記録する

- 記録する日を選択する。
- 時間帯ごとに行動の回数を記録する。
※時間帯ごとの行動の項目をタップすることで記録される。
(タップした回数が増えていく)
※修正する場合は、右上のメニューボタンから「記録削除」を選択し、修正箇所をタップすることでから修正を行うことが可能。

(4) 行動の記録を積み重ねる

- 毎日2週間続けて記録をとる。
- 随時「測定時間における行動生起率」を確認する。



⑤ 記録を確認する

- 使用するもの: Observationsの分析用HP
- (URL: <https://observationsanalysis.web.app/>)

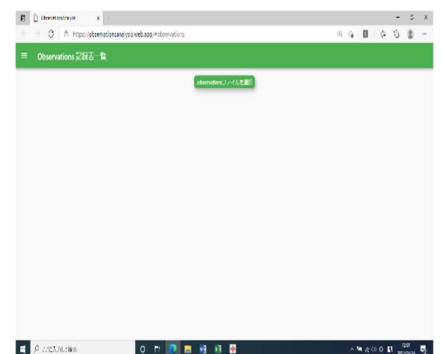
(1) アプリの記録をPCに送る (またはアプリがある機器のフォルダに保存する)



- Observations 2 アプリで取った記録を、各記録の画面右上のメニューから「共有」を選択する。
- データをメールでPCへ送信、またはアプリで記録している機器のフォルダに保存する。

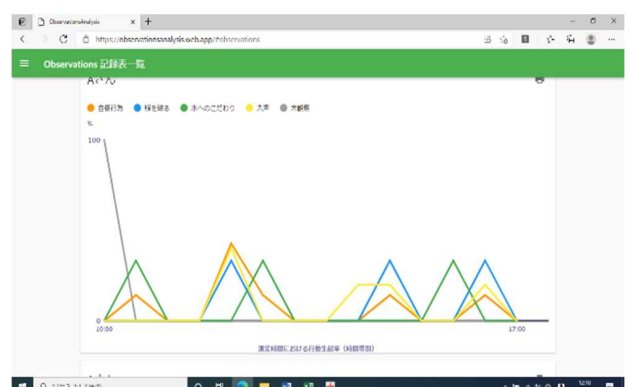
(2) 分析用HPにデータをアップロードする

- Observations 分析用HPを開き、左上のメニューボタンから該当するアプリを選択し、記録のデータをアップロードする。



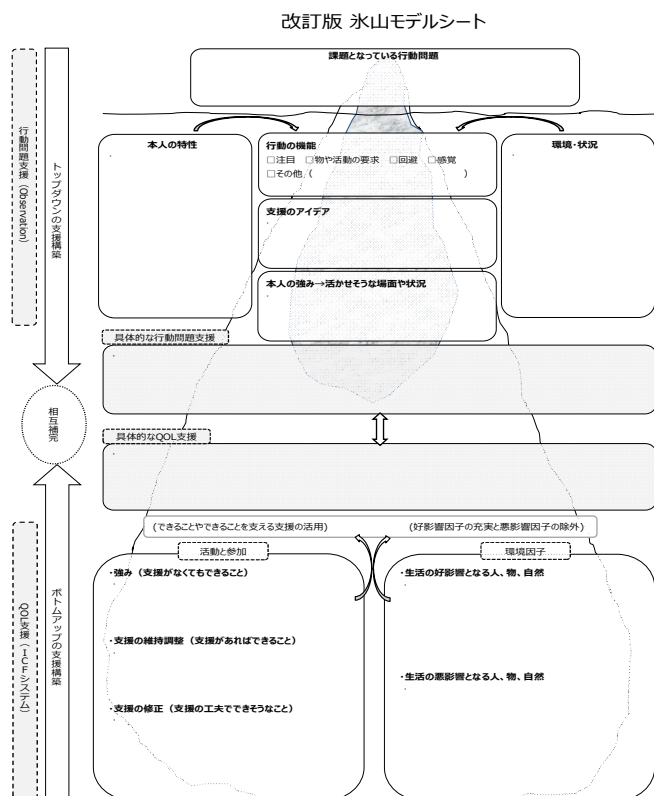
(3) アップロードしたデータを確認する

- 「時間帯」「日別」「月別」等詳細なデータの確認が可能。
- アップロードしたデータはExcel形式でダウンロードが可能。



⑥ 支援会議を実施し、冰山モデルシートで行動の背景を整理する

- 使用するもの：冰山モデルシート ・ ICFシステムの記入内容 ・ 行動記録
- 取り組んでいただきたいこと：ICF（作業①）と記録（作業②④）等をもとに支援会議を行い、課題となっている行動の背景を整理する



(1) 「冰山モデルシート」に落とし込む

- 冰山モデルの項目に沿って背景要因を分析する。
- 冰山モデルシートに記入する。
【行動問題支援】
 1. 課題となっている行動と背景要因を記入する。
 ※「課題となっている行動」「本人の特性」「環境・状況」
 2. 必要なサポートを検討し、記入する。
 ※「支援のアイデア」「本人の強み→活かせる場面や状況」「具体的な行動問題支援」

【QOL支援】

3. ICFシステムの「活動と参加」「環境要因」の結果より、支援に必要な情報を転記する。
4. 「具体的なQOL支援」を記入する。

⑦ 支援を立案する

- 使用するもの：支援手順書（事業所で使用しているもの）
- 取り組んでいただきたいこと：ICF（作業①）と記録（作業②④）、冰山モデル（作業⑥）を踏まえて、必要な支援を検討し、支援手順書を作成する。

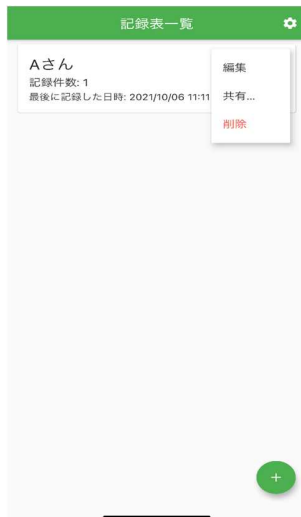
⑧ 支援の実施および行動の記録をおこなう

- 使用するもの：Observations 2（スマホアプリ）
- 取り組んでいただきたいこと：作業⑦で作成した「支援手順書」を基に支援を行い、作業⑥の記録を引き続き行う。

⑨ 記録を確認する

- 使用するもの：Observationsの分析用HP
- (URL：https://observationsanalysis.web.app/)

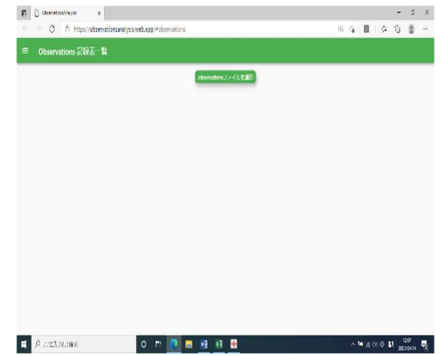
(1) アプリの記録をPCに送る (またはアプリがある機器のフォルダに保存する)



- Observations 2 アプリで取った記録を、各記録の画面右上のメニューから「共有」を選択する。
- データをメールでPCへ送信、またはアプリで記録している機器のフォルダに保存する。

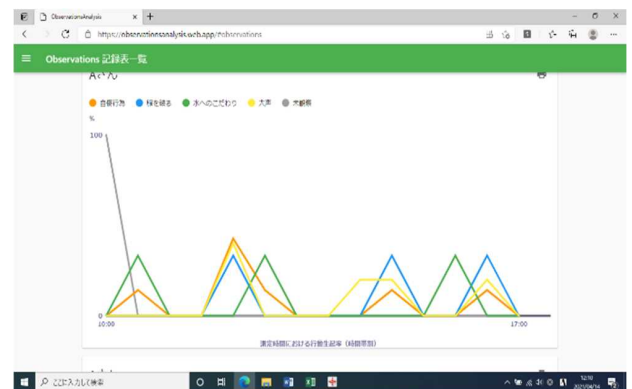
(2) 分析用HPにデータをアップロードする

- Observations 分析用HPを開き、左上のメニューボタンから該当するアプリを選択し、記録のデータをアップロードする。



(3) アップロードしたデータを確認する

- 「時間帯」「日別」「月別」等詳細なデータの確認が可能。
- アップロードしたデータはExcel形式でダウンロードが可能。



⑩ ICFシステムを見直し、支援前後の状況の変化を分析する

- 使用するもの：ICFシステム
- 取り組んでいただきたいこと：記録の分析を踏まえ、作業①で記入したICFシステムを見直し、支援前後の状況の変化を比較する。
- これまでの記録の分析を踏まえて、①の作業（ICFシステムの情報分析シートの作成）を再度行う。
- 全ての項目を書き直すのではなく、変化が見られた項目等必要に応じて加筆修正を行い、見直しを行う。

⑪ 支援を修正する

- 使用するもの：支援手順書（事業所で使用しているもの）
- 取り組んでいただきたいこと：これまでの作業を踏まえて、支援の見直しを行う。
- 作業⑩を踏まえ、作業⑦で検討した支援内容を見直し、必要に応じて修正する。
- 作業⑧の支援の実施へ戻り、可能な限りサイクルを繰り返す。

「強度行動障害者支援のための指導的人材養成プログラムの開発および地域支援体制の構築のための研究」
-ICFシステム&行動観察システム- 行動と環境の包括的アセスメントによる環境調整 支援パッケージ アンケート

【目的】

先行研究や当法人が行った調査より強度行動障害者支援の現場では下記のような課題が見られています。

課題 1：目に見えにくい障害特性や本人の強み環境要因等の把握および支援計画等への反映を難しいと感じる支援者が多い

課題 2：記録の収集や分野を超えた関係者間の情報共有に関して標準的な方法がない

課題 3：記録に関して記入や分析とも労力が大きく、時間が十分にとれていない現状がある

上記課題を解決するためにICF（国際機能分類）やICT（Observations）を取り入れた効果的な利用者情報の把握や記録の収集・分析・共有を行うための「-ICFシステム&行動観察システム- 行動と環境の包括的アセスメントによる環境調整支援パッケージ」を作成しました。
本実践検討意見交換会参加事業所において、試行等ご協力いただきました。つきましては、使用感等について下記の通りお尋ねいたします。

【回答方法】

本パッケージが上記課題解決に効果があったかどうか、下記の該当する番号を各質問の「回答番号」欄に記入し、その番号を選んだ理由もご記入ください。

- ① 効果的であった
- ② 少し効果的であった
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり効果的ではなかった
- ⑤ 効果的ではなかった

【回答期限】

令和 5 年 3 月 15 日（水）まで

※本Excelデータを、下記メールアドレスまでご提出をお願いいたします。

◆アドレス：nozomi.tyousa2@nozomi.go.jp

【本件に関するお問い合わせ】

独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
研究部研究課 日詰 高橋 岡田 内山
☎：027-320-1400

I． 回答者についてご記入ください

事業所名		記入者名	
------	--	------	--

II． 「課題 1」に関することについてご回答ください

Q 1． 利用者の障害特性や強み、環境要因等の把握・整理が行いやすくなったかどうかについて教えてください

回答 番号		選出 理由	
----------	-------------	----------	-------------

Q 2． 支援課題が焦点化され、支援計画が具体的になったかどうかについて教えてください

回答 番号		選出 理由	
----------	-------------	----------	-------------

Ⅲ. 「課題 2」に関することについてご回答ください

Q3. 支援者が支援に必要な利用者情報や記録の収集が行いやすくなったかどうかについて教えてください

回答 番号		選出 理由	
----------	--	----------	--

Q4. 関係者間での利用者情報や支援に関する情報共有が行いやすくなったかどうかについて教えてください

回答 番号		選出 理由	
----------	--	----------	--

Ⅳ. 「課題3」に関することについてご回答ください

Q5. 記録に係る負担感の軽減が図れたかどうかについて教えてください

回答 番号		選出 理由	
----------	--	----------	--

Q6. 支援に必要な利用者情報および記録等の分析がしやすくなったかどうかについて教えてください

回答 番号		選出 理由	
----------	--	----------	--

Ⅵ. 試行調査全体に関することについてご回答ください

Q7. 試行調査で実施した本パッケージ全体に関する評価について教えてください

回答 番号		選出 理由	
----------	--	----------	--

Q8. 本パッケージの改善点等があれば教えてください（例：実施手順、使用ツール等）

--

アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。

実践検討・意見交換会 アンケート調査結果

(1) 支援パッケージに関するアンケート結果

n=13

		効果的であった	少し効果的であった	どちらともいえない	あまり効果的ではなかった	効果的ではなかった
Q1	回答数 (人)	5	6	2	0	0
	構成比 (%)	38.5	46.2	15.4	0	0
Q2	回答数 (人)	3	8	2	0	0
	構成比 (%)	23.1	61.5	15.4	0	0
Q3	回答数 (人)	1	8	4	0	0
	構成比 (%)	7.7	61.5	30.8	0	0
Q4	回答数 (人)	3	7	2	1	0
	構成比 (%)	23.1	53.8	15.4	7.7	0
Q5	回答数 (人)	2	5	3	2	1
	構成比 (%)	15.4	38.5	23.1	15.4	7.7
Q6	回答数 (人)	4	7	1	1	0
	構成比 (%)	30.8	53.8	7.7	7.7	0
Q7	回答数 (人)	4	7	2	0	0
	構成比 (%)	30.8	53.8	15.4	0	0

(2) QOL 支援の現状、変化等に関するアンケート調査項目・結果

q 1. いま現在、利用者の QOL（生活の快適さ）の程度はどのくらいだと評価しますか？

■ 評価：（とても低い） 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 （とても高い）

n=13

		1	2	3	4	5	6
事前	回答数 (人)	1	4	3	5	0	0
	構成比 (%)	7.7%	30.8%	23.1%	38.5%	0.0%	0.0%
事後	回答数 (人)	1	2	5	3	2	0
	構成比 (%)	7.7%	15.4%	38.5%	23.1%	15.4%	0.0%

q 2. 設問 (1) についての貴事業所での評価はどの程度の妥当性があると思いますか？

■ 評価：（とても低い） 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 （とても高い）

n=13

		1	2	3	4	5	6
事前	回答数 (人)	0	3	4	2	4	0
	構成比 (%)	0.0%	23.1%	30.8%	15.4%	30.8%	0.0%
事後	回答数 (人)	1	0	4	5	3	0
	構成比 (%)	7.7%	0.0%	30.8%	38.5%	23.1%	0.0%

q 3. いま現在、利用者が快適に過ごせる生活場面や環境状況の把握はどの程度できていますか？

■ 評価：(不十分) 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 (十分) n=13

		1	2	3	4	5	6
事前	回答数 (人)	1	2	4	5	0	1
	構成比 (%)	7.7%	15.4%	30.8%	38.5%	0.0%	7.7%
事後	回答数 (人)	1	2	4	4	2	0
	構成比 (%)	7.7%	15.4%	30.8%	30.8%	15.4%	0.0%

q 4. いま現在、利用者が快適に過ごせない生活場面や環境状況の把握はどの程度できていますか？

■ 評価：(不十分) 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 (十分) n=13

		1	2	3	4	5	6
事前	回答数 (人)	0	3	3	5	1	1
	構成比 (%)	0.0%	23.1%	23.1%	38.5%	7.7%	7.7%
事後	回答数 (人)	0	2	5	5	1	0
	構成比 (%)	0.0%	15.4%	38.5%	38.5%	7.7%	0.0%

q 5. いま現在、利用者の QOL の向上につながる支援方策が把握できていますか？

■ 評価：(把握できていない) 1 — 2 (把握できている)

		1	2	
事前	回答数 (人)	7	6	n=13
	構成比 (%)	53.8%	46.2%	
事後	回答数 (人)	7	6	
	構成比 (%)	53.8%	46.2%	

q 6. いま現在、利用者の QOL 向上を目的とする支援の重要性は事業所で共有されていますか？

■ 評価：(共有されている) 1 — 2 (少し共有されている) — 3 (あまり共有されていない) — 4 (共有されていない)

		1	2	3	4	
事前	回答数 (人)	1	2	5	5	n=13
	構成比 (%)	7.7%	15.4%	38.5%	38.5%	
事後	回答数 (人)	0	4	8	1	
	構成比 (%)	0.0%	30.8%	61.5%	7.7%	

q 7. いま現在、「支援の内容・質を利用者本人の視点から考えること」は事業所の共通認識となっていますか？

■ 評価：(なっていない) 1 — 2 (あまりなっていない) — 3 (少しなっている) — 4 (なっている)

		1	2	3	4	
事前	回答数 (人)	0	3	6	4	n=13
	構成比 (%)	0.0%	23.1%	46.2%	30.8%	
事後	回答数 (人)	0	3	6	4	
	構成比 (%)	0.0%	23.1%	46.2%	30.8%	

q 8. いま現在、「利用者の QOL 向上に有用な情報」の職員間での共有はどの程度できていますか？

■ 評定：(不十分) 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 (十分) n=13

		1	2	3	4	5	6
事前	回答数 (人)	0	1	3	7	2	0
	構成比 (%)	0.0%	7.7%	23.1%	53.8%	15.4%	0.0%
事後	回答数 (人)	0	4	6	2	0	1
	構成比 (%)	0.0%	30.8%	46.2%	15.4%	0.0%	7.7%

q 9. いま現在、「利用者の QOL 向上に有用な支援アイデア」の職員間での共有はどの程度できていますか？

■ 評定：(不十分) 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 (十分) n=13

		1	2	3	4	5	6
事前	回答数 (人)	0	3	2	6	2	0
	構成比 (%)	0.0%	23.1%	15.4%	46.2%	15.4%	0.0%
事後	回答数 (人)	0	4	6	2	0	1
	構成比 (%)	0.0%	30.8%	46.2%	15.4%	0.0%	7.7%

※以下、事後評価のみ

q 10. ICF による評価で利用者が快適に過ごせる場面が新たに把握されましたか？

q 11. ICF による評価で利用者が快適に過ごせない場面が新たに把握されましたか？

q 12. ICF による評価で利用者の QOL 向上につながる新たな支援方策が見いだせましたか？

■ 評定：(いいえ) 1 — 2 (はい) n=13

		1	2
q 10	回答数 (人)	2	11
	構成比 (%)	15.4%	84.6%
q 11	回答数 (人)	5	8
	構成比 (%)	38.5%	61.5%
q 12	回答数 (人)	2	11
	構成比 (%)	15.4%	84.6%

q 13. ICF による評価で「支援の内容・質を利用者本人の視点から考えること」がより具体的にできるようになりましたか？

■ 評定：(具体的に考えられなかった) 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 (具体的に考えられた) n=13

		1	2	3	4	5	6
回答数 (人)		0	0	1	7	4	1
	構成比 (%)	0.0%	0.0%	7.7%	53.8%	30.8%	7.7%

q 14. ICF による評価で「利用者の QOL 向上に有用な情報」の職員間での共有はやりやすくなりましたか？

■ 評定：（やりづらくなった） 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 （やりやすくなった） n=13

	1	2	3	4	5	6
回答数（人）	0	0	3	9	0	1
構成比（％）	0.0%	0.0%	23.1%	69.2%	0.0%	7.7%

q 15. ICF による評価で「利用者の QOL 向上に有用な支援アイデア」の職員間での共有はやりやすくなりましたか？

■ 評定：（やりづらくなった） 1 — 2 — 3 — 4 — 5 — 6 （やりやすくなった） n=13

	1	2	3	4	5	6
回答数（人）	0	0	3	8	2	0
構成比（％）	0.0%	0.0%	23.1%	61.5%	15.4%	0.0%

q 16. 冰山モデルシートの作成に際して、Observations のデータは焦点となる行動問題への支援、ICF システムは生活全般の QOL 支援という使い分けができていましたでしょうか。

■ 評定：（いいえ） 1 — 2 （はい） n=13

	1	2
回答数（人）	2	11
構成比（％）	15.4%	84.6%